1億人のネット宣言 もっとグッドネット

大阪私学
教育情報化研究会

EMA

高校生 ICT Conference 2015

言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！

～　高校生のボクたちだから　～

開催報告書

主催

高校生 ICT Conference 実行委員会

共催

総務省、文部科学省、内閣府、経済産業省

情報化月間 2015

2016 年 2 月 25 日

第 1.0 版

目　　次

1.　開催概要 1
2.　高校生 ICT Conference 2015 in 北海道　第一回 5
3.　高校生 ICT Conference 2015 in 北海道　第二回 10
4.　高校生 ICT Conference 2015 in 東京 17
5.　高校生 ICT Conference 2015 in 神奈川 22
6.　高校生 ICT Conference 2015 in 石川 27
7.　高校生 ICT Conference 2015 in 長野　第一回 31
8.　高校生 ICT Conference 2015 in 長野　第二回 37
9.　高校生 ICT Conference 2015 in 大阪　第一回 46
10.　高校生 ICT Conference 2015 in 大阪　第二回 51
11.　高校生 ICT Conference 2015 in 奈良 56
12.　高校生 ICT Conference 2015 in 福岡 61
13.　高校生 ICT Conference 2015 in 大分 66
14.　高校生 ICT Conference 2015　サミット 70
15.　高校生 ICT Conference 2015　最終報告会 74
16.　高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応 93

1. 開催概要

名　称：	**高校生 ICT Conference 2015** テーマ **言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！～　高校生のボクたちだから　～** 第1部「大人のルール&マナー」 第2部「大人が作った子供のルール&マナーを考える」
主催：	● 高校生 ICT Conference 実行委員会 （構成：安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会） ● 長野教育委員会（長野のみ） ● 福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会（福岡のみ） ● 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所（大分のみ） ● 特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム（神奈川のみ）
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、帝塚山大学（奈良のみ）、 大分県教育委員会、大分県高等学校 PTA 連合会（大分のみ）、 神奈川県教育委員会（神奈川のみ）
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所、全国高等学校情報教育研究会、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、大阪府高等学校情報教育研究会、東京都高等学校情報教育研究会、奈良県、奈良県情報教育研究会、奈良県教育委員会、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校ＰＴＡ連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、いしかわ青少年安心ネット環境推進連絡会、北陸携帯電話販売店協会、社団法人せんだんの会
協賛：	株式会社サイバーエージェント、グーグル株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー、グリー株式会社、 LINE 株式会社、株式会社ラック、株式会社メディア開発綜研
協力：	アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、一般社団法人情報教育研究所、デジタルアーツ株式会社、株式会社ミクシィ　（順不同）
開催目的：	高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方＆活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。2015 年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに石川、長野、神奈川、福岡を加えた 9 拠点にて開催し、計 78 校 310 人の高校生が参加しました。 さらに当事者たる高校生の意見を中央に届けるべく、各地域の代表者はサミットにより提言をまとめ、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省で発表を行いました。

	高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。 ※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面実施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。
開催の概要：	【各開催地での内容】 ※日程は＜高校生 ICT Conference 2015　地域開催＞の欄をご覧ください。 **・第一部　「大人のルール&マナー」** （1）挨拶（2）講演　(3)熟議イントロダクション　(4)熟議　(5)グループ発表 （6）講評 **・第二部　「大人が作った子供のルール&マナーを考える」** （1）挨拶（2）講演（3)熟議　(4)グループ発表　(5)総評　(6)サミット参加者発表 **【サミット】「言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！** **～　高校生のボクたちだから　～ 」** （1）挨拶　（2）アイスブレイク　（3）提言のための熟議　（4）提言発表 （5）講評　（6）最終報告会参加者発表 **【最終報告会】** 内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 総務省、文部科学省、経済産業省にて成果・提言報告及び意見交換
各開催地 募集人員等：	（募集参加生徒、見学者は各開催地により変動あり）
参加・参観 方法：	参加費・参観無料 ［要事前登録］
高校生 ICT Conference 2015 実行委員会：	【委員長】 • 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会　副会長） 【コアメンバー】 • 齋藤長行（株式会社 KDDI 研究所）

	• 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） • 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会　IT 研究会代表・消費者団体訴訟室長） • 植田　威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） • 小城　英子（聖心女子大学 ） • 他、関係者団体、事業者等 【事務局】 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号　斎藤ビル 2 階 TEL：03-3562-8850　FAX：03-3562-1180

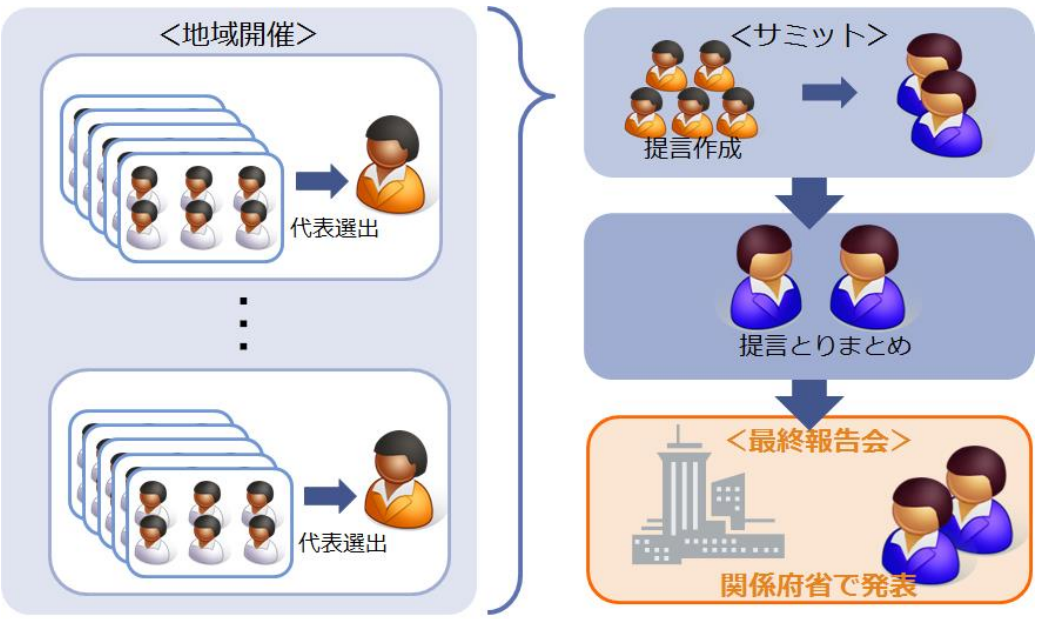
＜高校生 ICT Conference 2015　地域開催＞

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生が２つのテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜しました。

場所	日時	場所	学校数	生徒数
北海道 第１回	9 月 27 日（日） 13:30～17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala （内田洋行）	5	21
北海道 第２回	10 月 18 日（日） 13:30～17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala （内田洋行）	5	37
石川	9 月 13 日（日） 10:00～17:00	金沢商工会議所	13	32
長野 第１回	9 月 5 日（土） 13:30～17:00	松本市駅前会館	5	17
長野 第２回	10 月 3 日（土） 13:30～17:00	松本市駅前会館	7	25
東京	10 月 11 日（日） 10:30～17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS （内田洋行）	5	18
神奈川	10 月 4 日（日） 10:00～17:00	岩崎学園	15	47
大阪 第１回	7 月 25 日（土） 13:30～17:00	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS （内田洋行）	3	32
大阪 第２回	9 月 20 日（日） 13:30～17:00	大阪私学会館	5	38
奈良	7 月 26 日（日） 10:00～17:00	帝塚山大学 東生駒キャンパス	10	41
福岡	9 月 12 日（土） 12:30～17:00	ガスホール	10	33
大分	8 月 29 日（土） 10:00～16:00	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ	8	30

計 78 校 310 人

サミット	11 月 3 日（火） 13:30～17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS （内田洋行）	11	11
最終報告会	12 月 9 日（水） 10:00～17:30	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省	2	2



2.　高校生 ICT Conference 2015 in 北海道　第一回

概要	高校生、教員、企業関係者など約 50 名の参加者を得て、「**大人のルール&マナー**」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　羽衣学園高校　米田　謙三　先生** ICT カンファレンスの意義や目的など、あわせて本日の進行について説明しました。 開会の挨拶 **内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付　参事官補佐　清水　泰貴　様** 高校生 ICT Conference2015 の意義及び内閣府の役割についてもあわせて紹介いただきました。 **第一部　　事業者による講演** 企業さんがあらかじめ自分達でテーマを決めて、短い時間で以降の熟議につながる内容をそれぞれ講演してくださいました。 **『ネットは匿名か？』** **株式会社ディー・エヌ・エー　カスタマーサービス部　西　雅彦　様** インターネットの匿名性について、講演してくださいました。過去にインターネットで炎上したトラブル事例、特に犯罪、違法行為とされる写真や書き込みのアップロードはすぐに個人情報が特定されてしまうこと。その情報はいつまでもインターネット上に残り大人になってもリスクがあることに関して講演してくださいました。 **『アカウント情報を改めて考える』** **株式会社サイバーエージェント　メディアサポート室　中村　広毅　様** アカウントの用語説明から始まり、企業、サービスがアカウントを用いて何を管理しているのか、アカウントへの不正アクセスの事例、パスワード管理、アカウント情報を教えてしまうリスクに関して講演してくださいました。 参加生徒は各講演内容のメモをとりながら次の熟議に備えていました。講演内容は現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など生徒、引率の先生や参観した大人にも大変有意義なものでした。 **参加校　学校紹介　および　グループ分け** 参加生徒全員が、前に出て学校ごとに簡単な自己紹介と熟議参加にあたっての意気込みを語ってもらいました。その後グループ分けして４つのグループに分かれました。

	第二部：熟議「大人のルール&マナー」 　グループに分かれ全国消費生活相談員協会の相談員や一般社団法人 LOCAL の協力関係団体・企業の方がファシリテーターとなり、熟議を開始しました。高校生たちはルールとマナーについて、自分たちが考えていることをそれぞれ発表し、活発に意見を出し合いました。公共の場でのルールとマナーの違いや大人の使い方について、分析したグループもありました。そこからいよいよ今回のテーマの「大人のルール&マナー」ということで、付箋紙を使いながらまとめていきました。付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で、さらに意見を整理分類して、各グループがまとめて行きました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。 　また北海道情報大学の学生さんにサポーターで入っていただき、生徒さんの年齢に近い立場から助言をいただきました。さらに、参加している協力関係団体・企業の方からも的確な助言をいただきました。 　各グループとも発表内容についてしっかり話し合い、滞りなくまとめることができました。 **第三部:グループ発表** ・グループ発表（各グループ 3 分程度） 　今回の発表のポイントは　前半の企業さんの講演内容を、高校生が上手に活用していたことです。スマホ利用のメリット・デメリットをうまく読み取り、発表につなげていました。 　さらに「読むことが少ない利用規約をどのように考えるのか」「SNS で発信する言葉に対して思いやりを持つこと」「コミュニケーションの大切さ」に関してうまくまとめていました。 **（グループ発表概要）** 第１班 ・スマホの危険をテーマに話し合った。 ・自転車に乗りながら、車を運転しながらの、ながらスマホはたいへん危険。TPO を考えて使うことが必要。 ・その理由は、周囲に注意が向かなくなる。スマホに夢中になって、店で子どもをほったらかしにしている親をよく見かける。札幌駅のポケモンセンターで、親は入り口でスマホ、子どもは商品に噛みついているのを実際に見た。 ・マナー、ルール以前に、子どもが一緒の時は、必要な時以外スマホを使わない。親が子どもの面倒を見るのは当たり前。 ・解決策は、そうならないよう自分たちが強く意識していくこと。 第２班 ・今、ネットで一番問題になっている「ルール無視」を話し合った。

	・なぜバカッターは消えないのか。注目されたい、子どものような思考でやっているという話になった。こういう人たちは警察沙汰になっても、何も知らなかったと言い訳をする。無知という逃げ道をふさぐことが大事。 ・本当に無知な人もいるが、講習するとか、ネットの人たちが協力してルールを守るよう教えると良い。 ・法律で憲法が１番上のように、ルールにも順位がある。すべてに適用できる最低限のルールを法律にして、全員がマナーを守るようにできたら良い。ルールを明確にすることによって、無知な人にもルール違反するような人にもわかるようにする。いろいろな国の人がいて、すべての人に適用するのは難しいかもしれないが、日本人が多くのひとに広めていけば健全なネット社会を作れるのではないか。 第３班 ・情報の信頼性・影響力、移動中のながらスマホ、利用規約について話し合った。 ・１８歳、高３で選挙権を持つことになった。高校生も政治や様々な事件に関心を持たなければならない。 ・若者による SNS を使った政治活動が活発になっているが、ネットだけの情報収集では情報が偏る。Twitter は文字制限があり情報が限られる。新聞やテレビを見て自分たちの将来を決めることが必要。信頼できる情報か確かめることも重要。 ・公共交通機関では携帯の電源を切るよう放送があっても、電話に出る人をよく見かける。地下鉄でみんな同じ体勢でスマホをいじっている姿も気になる車の運転者が赤信号でスマホを取り出し、青になっても発進が遅れることもある。 ・危険を伴う移動中のながらスマホは止める。公共のルールを守って使えるようになると良い ・アカウントを作る際、ちゃんと利用規約を読んだことがある人は挙手を。半数が読まないことがわかった。とにかく文章が長い、言葉が難しいことが問題。短くまとめてくれると自分たちも読める。 第４班 ・大人が勝手に作った規制について話し合った。 ・テレビの不完全な話、大げさな表現を鵜呑みにすることについて考えた。 ・子供たちは好奇心を持っており、パソコン、ゲームをやりたくなってしまう。 ・強くなりたくてゲームで課金する。それを親が規制する。子どもは抜け道を考える。親はさらに規制する。やりたい気持ちが強くなって、依存症になる。 ・解決策は、ルールの中でどれだけ楽しんで遊ぶかということ。時間を決める。ネットする前にやらなければいけないことを済ませる。規制できる強い心を自分自身が持つ。 ・家族と協力して、違うことに興味を持つようにすれば決めたルールの中でやっていけるのでは。ルールやマナーを家族で話し合えば、もう少し良くなるのではないかと考えた。

	・ルールを押しつけるのではなく、みんなで考え納得したものを自分たちが守るようにすると良い。 **講評　　北海道情報大学　高井　那実　様** 　はじめに、「本日参加した高校生の皆さんは最初は緊張したと思うが、発表の時は笑顔も見られ充実していたと思う。実体験に基づいて問題点がよくまとまっていてわかりやすかった。」という点について話されました。 　次に各グループの発表について、それぞれ講評がありました。「情報と信頼性というメディアリテラシーの問題、ルール作りへの参加、インターネット利用に関して知識のない人に対する啓蒙に気づいてくれたことは頼もしい。自分たちでルールを意識していくことは難しいが、本日の熟議を２回目で、さらに掘り下げていってもらいたい。」とコメントがありました。 　最後に、**羽衣学園高校　米田　謙三先生**より、第二回の参加呼びかけをいただきました。
参加校：	北海道札幌手稲高等学校、北海道旭川工業高等学校、北海道札幌東豊高等学校、北海道静内農業高等学校、北海道札幌旭丘高等学校
日　　時：	2015 年 9 月 27 日（日）13:30-17:00
場　　所：	内田洋行・札幌ユビキタス協創広場 U-cala 札幌市中央区北１条東４丁目 1－1　サッポロファクトリー1 条館１階
参加人数：	熟議参加生徒　21 人 見学者　28 人（教員・教育関係者・その他） 合計：　49 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【第１班】６人 北海道静内農業高等学校　２年　男子 北海道札幌手稲高等学校　２年　男子 北海道札幌旭丘高等学校　１年　男子 北海道札幌東豊高等学校　２年　女子 北海道札幌東豊高等学校　２年　男子 北海道札幌東豊高等学校　３年　女子 〔ファシリテーター〕 （株）ディー・エヌ・エー　西　雅彦 【第２班】５人 北海道旭川工業高等学校　２年　男子 北海道札幌旭丘高等学校　１年　男子 北海道札幌手稲高等学校　２年　男子 北海道札幌東豊高等学校　１年　女子 北海道札幌東豊高等学校　１年　女子

	〔ファシリテーター〕 一般社団法人 LOCAL　三谷　公美 【第３班】５人 北海道札幌東豊高等学校　１年　女子 北海道札幌東豊高等学校　１年　女子 北海道札幌手稲高等学校　２年　女子 北海道旭川工業高等学校　２年　男子 北海道札幌旭丘高等学校　１年　男子 〔ファシリテーター〕 全国消費生活相談員協会北海道支部　山口　博美 〔ファシリテーター補助〕 北海道情報大学４年　深川　優菜 【第４班】５人 北海道静内農業高等学校　２年　男子 北海道札幌旭丘高等学校　１年　女子 北海道旭川工業高等学校　２年　女子 北海道札幌東豊高等学校　１年　女子 北海道札幌東豊高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 一般社団法人 LOCAL　蒲田　拓也

主担当

羽衣学園高校	米田	司会
安心ネットづくり促進協議会	吉村　他	事務局、庶務、受付
草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	吉岡	庶務、受付
各地協力団体、事業者等		挨拶、講演、現地調整、ファシリテーター、書記、記録（撮影）、　他
内田洋行	舟根、齋藤	会場設営、機材準備等

3. 高校生 ICT Conference 2015 in 北海道　第二回

概要	高校生、教員、企業関係者など 66 名の参加者を得て、**「大人が作った子供のルール&マナーを考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　羽衣学園高校　米田　謙三　先生** 高校生 ICT Conference の意義や目的とあわせて、本日の流れを紹介しました。また、１１月の東京サミットに送り出す代表校選出の方法についても紹介しました。 **開会の挨拶** **北海道総合通信局情報通信部電気通信事業課　中野　正人　様** フィルタリングに関する法律があること。自転車の乗り方を具体例として、インターネットとのつきあい方をお話しいただきました。あわせて、総務省の情報モラル・リテラシー向上の取り組みを紹介いただきました。 **第二部　　事業者による講演** **「ルール&マナー」を考える際の予備知識** **LINE 株式会社　政策企画室　高橋　誠　様** ルールを考える際、どのように考えればよいか、気をつけるべきことは何かについてお話しいただきました。 まず、「悪口を言ってはいけない」という具体例を出し、なぜこのルールを作る必要があるのか、どういう状態だと守られていると言えるか、どうやったら維持できるか、ということをお話しいただきました。 そして、インターネットの特徴（公開される、記録される、拡散する等）についても触れられ、特徴を踏まえて、ルールを作ることが目的になるとそこで思考停止してしまう。ルールを作る際は『最終的にどういう状態になることがよいか』『ルールを作ることが目的ではなく自ら考え続ける』ということをお話しくださいました。その上で、ルールを決めて実行するだけでなく、必要に応じてルールを見直す方法も事前に考えておくなど、PDCA サイクルを考えよう、とお話しいただきました。 **参加校　学校紹介　および　グループ分け** 参加学校ごとに簡単な自己紹介を行いました。 自己紹介で少し緊張感も和らぎました。その後、６つにグループ分けしました。 **第二部：熟議「大人が作った子供のルール&マナーを考える」** グループに分かれ全国消費生活相談員協会北海道支部、（一社）北海道消費者協会、（一社）LOCAL、目白大学や事業者の方等がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。高校生たちは付箋紙に考えていることを提示していき、活発

	に意見を出し合っていました。ネットの問題について、大人が知らな過ぎるといった問題点を提示しつつ、その大人に向けた発信方法を検討しているグループもありました。ルールについて深く考え、分析したグループもありました。そこから、今回のテーマである「大人が作った子供のルール&マナーを考える」ことについて、「高校生だから言える提言」をキーワードに、付箋紙などを使いまとめていきました。付箋紙に書き出して貼り付けしていく中で、出された意見を整理分類して、最後に、グループごとにパソコンを使ってプレゼンテーションソフトでまとめました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。 　また、熟議には企業の方もサポータとして入っていただき、専門的な質問に答えてくださいました。 第三部：グループ発表 ・グループ発表（各グループ４分程度） 　各グループ４分程度で発表を行いました。 　各グループは、模造紙のまとめとプレゼンテーションソフトを上手に活用しながら堂々と発表していました。 　その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、１１月３日の東京サミットに行く代表校を選ぶ投票を行いました。 　その結果、北海道札幌東豊高等学校が代表校に選ばれました。 （グループ発表概要） 第１班　テーマ「私たちが気になったルールー子供に対するスマホの利用制限について」 ・家庭で設ける時間制限ルールの良い点は、「自由な時間ができる。ネット利用時間が短くなる。家族とコミュニケーションが増える。」ということ。その他、セキュリティ面でも安心ということ。 ・悪い点は「緊急時に連絡がとれない。友達とコミュニケーションが減る。」ということ。 ・子供が納得できるルールを作るには、「親と子の使用条件は同じにする。やるべきことが終わったら自由に使える時間を与える。」ことを認めてほしい。また、「料金は親が払うのだから、言うことを聞きなさいという脅迫は止めてほしい。」という意見が出た。 ・ルールは押しつけでなく、普段から親子のコミュニケーションを大切にし、しっかり話し合って決めると良い。 第２班　テーマ「僕たちの伝えたい事」 ・大人が作ったルール＆マナーで出された意見は、学校によってスマホの使用制限に違いがあること、フィルタリングで見られない情報があること。その他、使用時間と機能制限に関することである。 ・高校生の私たちが伝えたいのは、ルールの目標をはっきりさせること。ルールが

	十分生かされていない面があるということ。フィルタリングで詐欺や有害サイトを完全に防ぎきれないのは、ルールが生かされていないのではないかということ。 ・子供たちに大人の意見を押しつけないで欲しい。大人や親が決めたルールがきつすぎて必要な情報が得られない。話し合いで自由な部分を認めることも必要。 ・ルールは誰がどのように作るのか。大人が勝手に作ったルールを押しつけるのではなく、子供と話し合って、お互いが納得できるものがいい。 第３班　テーマ「SNS を使いやすくするためには？」 ・ルールの前提となる知識について問題点を考えた。「初心者にとって使い方がわかりにくい。専門用語が多い。マナーを学ぶ場がない。個人情報を守る手段を知る方法がない。」ということについて解決策を話した。 ・私たちが考えた解決策は、実際に操作しながら使い方が覚えられる初心者向けのチュートリアルを追加する。リンクを貼って専門用語の解説を載せる。自分たちが知っているマナーを守ること。SNS も現実世界と同じという意識を常に持って使うこと。個人情報はできるだけ載せない。周囲の人にも注意することなどである。 ・企業には、私たちが知る機会、学ぶ場所を作って欲しい。また、SNS など偽名で登録できることについても説明を追加して欲しい。 ・私たちができることは、現実でも「悪口は相手に言わない。」という意識を SNS においても常に持つこと。企業に対しては、使い方やトラブルが起きたときの対処について、初心者にもわかりやすい説明をお願いしたい。初心者である私たちが、一定の知識を持てばトラブルは減ると思う。 第４班　テーマ「将来のネットに関するルール・マナー」 ・LINE の既読無視トラブル、相手が不快になるような発言、他人が不快になる画像や映像をツイートすることなど、身近にあるネットの問題を話し合った。 ・携帯依存によって寝不足、学力低下、ネット依存によるコミュニケーション能力の低下など、現実に悪影響が出てきた。それで、ルールや決まりができた。2009 年、石川県の条例で小中学生の携帯所持禁止ルールが決まった。しかし、これではモラルを育む機会を奪ってしまうと思う。小さい頃から段階的にルールやマナーを作っていくべきだと考える。 第５班　テーマ「大人たちよ！ボクたちに任せてくれ！！高校生のボクたちだから言えること」 ・問題点としては、フィルタリングによって取得できるアプリに制限がかかってしまうこと。ネットも制限がかかり、必要な情報が閲覧できない場合がある。また、端末は、寝る前の使用禁止などは親が利用制限をかけている。SNS では他人との会話が制限されてしまうという意見が出された。 ・自分で使う以上、リスクは自分で考えることが必要。SNS で知り合った人に、会わないように注意することも重要。 ・LINE や Twitter の仕組みを親が理解していないため、親の作ったルールは説得力がない。親も使ったうえで仕組みを理解して、親子が納得できるルールを作るよう

	にするとよい。 ・アプリの会社や携帯会社は売りたいがため、あまりデメリットを言わないだろうと私たちは思っている。親子で話し合ってルールを考えることが重要。 ・小中学生は携帯を持ち始める時期であり、年齢に見合ったフィルタリングは必要。一定の年齢に達すればいらないと思うが、自分でどのようなサイトか判断できる能力を持つことが大切。 ・依存者の声を聞いて欲しい。リスクはわかっているが、Twitter で LINE ID を交換している。フィルタリングしても抜け道がある。ルールも、依存している人には歯止めがない。本体を取り上げるのが一番。 第６班　テーマ「子供に課せられた規制」 ・私たちはまだ責任をとることができない。大人からいろいろな規則を言い渡されるが、その規則について私たちは毎日考えている。たとえば、信号のない交差点をどうしても渡りたい時はどうするか。自分は車が多く通る道路でなければ、斜め横断してしまう。パソコンでアダルトサイトを見たいけれど、規則では禁止。皆さんはどうするか。規則を守ることは難しい。 ・世代による常識の変化は思ったより大きく激しい。インターネット、SNS の普及で日々変化している。昔のルールに、さらにルールを付け足していくだけでは、私たちは納得できない。時代にあったルールに変えてしていく必要がある。 ・大人たちが、子供が気に入らないルールを変えていく、というのは違う。変えていくにしても、いろいろな人の意見を取り入れると合わなくなってしまうものが出てくる。何でもかんでも子供たちが言うままにルールを変えると、リスクが増えることになって、ルールとして成り立たなくなる。何が良くて、何が危ないのかわかるように簡単に示すこと。子供たちには何が危ないのか、子供自身に考える機会を与えることが必要。 **全体講評：北海道情報大学　高井　那美　様** 　はじめに、「無事２回目が終わって良かった。今回で２回目の生徒さんは積極的に発言していたが、今日初めて参加した生徒さんも、負けないで真剣に意見を戦わせていた様子が伺え感心した。前回は事例や問題点を言うだけで良かった。今回は２回目ということもあり解決策を考えなければということで、それを具体的にまとめるのは難しかったと思う。」と話されました。 　次に、各グループの発表について、以下のとおり講評をいただきました。 第１班 ・家庭での親子のコミュニケーションに着目して、それを大切に思っていてくれていることがうれしかった。 第２班 ・ルールの必要性について、どうしてルールが必要なのか。目標をはっきりさせなくてはいけないのか、こだわりをもっていた点が良かった。

	第３班 ・解決策に注目し、どう解決すればよいか丁寧に話していた。 ・特に、企業に対し学びの場を作る要望を出していたのが良かった。 第４班 ・何かうまくできないと、それがかえって厳しいルールに繋がることに着目していた。 ・親への啓発も含めて、小さい頃から段階的にマナーを学ばせる提言が良かった。 第５班 ・タイトルが「ボクたちに任せてくれ」と頼もしかった。 ・一旦良いことを言っておきながら、最後に依存者の声として心の本音を聞かせおもしろい構成。そこがルールづくりの難しさを物語っており、実際守らせるにはどうしたらいいか難しい、というのが依存者の生の声でわかった。 第６班 ・時代とともにルールを更新しないといけないところを強調していた。 ・話し方の導入は、つかみはオッケーという独創性を感じて良かった。 最後に、「ルールをどう守らせるかというところに、今日は至らなかった。ルールをこうしたら、ああしたらと言うのは簡単。皆さんなりのルールが出なかったように感じる。自分たちが大人をあっと言わせるルールまで出せなかったのではないか。皆さんがこれからのネット社会を引っ張っていく。これから、どういうルールを作って、どう守らせていくのかを皆さんに考えてもらいたい。自分たちで何とかしたいという思いは伝わった。よりよいネット社会を皆さんで作ってもらいたい。若い皆さんの意見を直接聞けて勉強になった。」と全体講評をお話しいただきました。 最後に、米田先生から「今日で終わりではなくて、学校に戻ってぜひこの取組を広げてもらいたい。」と話がありました。
参加校：	北海道札幌手稲高等学校、北海道札幌東豊高等学校、北海道旭川工業高等学校、北海道札幌旭丘高等学校、北海道大麻高等学校
日　　時：	2015 年 10 月 18 日（日）13:30-17:00
場　　所：	内田洋行・札幌ユビキタス協創広場 U-cala 北海道札幌市中央区北 1 条東 4 丁目 1-1 サッポロファクトリー1 条館 1 階
参加人数：	熟議参加生徒　37 人 見学者　29 人（教員・教育関係者・その他） 合計：66 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【第１班】７人

	北海道大麻高等学校　１年　女子 北海道大麻高等学校　１年　女子 北海道旭川工業高等学校　２年　女子 北海道札幌東豊高等学校　１年　女子 北海道札幌東豊高等学校　２年　男子 北海道大麻高等学校　１年　男子 北海道札幌旭丘高等学校　１年　男子 〔ファシリテーター〕 一般社団法人 LOCAL　蒲田　拓也 【第２班】６人 北海道札幌東豊高等学校　１年　女子 北海道大麻高等学校　１年　女子 北海道大麻高等学校　１年　男子 北海道札幌旭丘高等学校　１年　女子 北海道札幌手稲高等学校　２年　男子 北海道札幌東豊高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 目白大学　金子　真志 【第３班】６人 北海道札幌東豊高等学校　３年　女子 北海道札幌東豊高等学校　２年　男子 北海道大麻高等学校　１年　男子 北海道大麻高等学校　１年　女子 北海道札幌旭丘高等学校　１年　女子 北海道札幌手稲高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 株式会社オキット　當山　達也 【第４班】６人 北海道大麻高等学校　　１年　女子 北海道札幌旭丘高等学校　１年　男子 北海道札幌手稲高等学校　２年　男子 北海道大麻高等学校　１年　男子 北海道大麻高等学校　１年　男子 北海道札幌東豊高等学校　１年　女子 〔ファシリテーター〕 一般社団法人 LOCAL　三谷　公美 【第５班】６人

	北海道札幌旭丘高等学校　１年　男子 北海道大麻高等学校　１年　男子 北海道大麻高等学校　１年　女子 北海道旭川工業高等学校　２年　男子 北海道大麻高等学校　１年　女子 北海道札幌東豊高等学校　１年　女子 〔ファシリテーター〕 一般社団法人　北海道消費者協会　田原　太志 【第６班】６人 北海道札幌東豊高等学校　２年　女子 北海道大麻高等学校　１年　男子 北海道旭川工業高等学校　２年　男子 北海道大麻高等学校　１年　女子 北海道大麻高等学校　１年　女子 北海道札幌旭丘高等学校　１年　男子 〔ファシリテーター〕 全国消費生活相談員協会北海道支部　山口　博美

主担当

大阪私学情報教育化研究会	米田	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	工藤	庶務
総務省　北海道総合通信局	中野　他	現地調整、受付、記録
全国消費生活相談員協会北海道支部	山口	ファシリテーター
一般社団法人 LOCAL	三谷　他	ファシリテーター、機材準備等
NPO 法人 NEXTDAY		機材準備等
株式会社ディー・エヌ・エー	西、朝倉	ファシリテーター補助
各地協力団体、事業者等		講演、現地調整、ファシリテーター、他
内田洋行	細井、福井	会場設営、機材準備等

4. 高校生 ICT Conference 2015 in 東京

概要	高校生、教員、企業関係者など 77 名の参加者を得て、**「大人が作った子どものルール&マナーを考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **司会進行・主旨説明** **一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構　　清水　将人　様** 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明していただきました。 **開会の挨拶** **文部科学省生涯学習政策局青少年教育課　課長　　泉　潤一　様** 高校生 ICT Conference や高校生の意見への期待、大会後の取り組みなどについてお話をいただきました。 **第一部：「事業者講演」** **『大人のルール&マナー』** **グリー株式会社　安心安全チームマネージャー　　小木曽　健　様** 歩きスマホやスマホ依存を例に出して、偏った情報に基づいたルール作りは失敗するということをお話しいただきました。その上で、ルール作りの意義や弊害との関係をスマホと睡眠時間や健康と絡めて問題を提言してくださいました。 **『アカウントについて』** **株式会社サイバーエージェント　カスタマーサポート室　室長　中村　広毅　様** アカウントについて、サイバーエージェントのサービスと絡めながらお話ししてくださいました。その上で、アカウントにまつわる事件として不正アクセスに関する事例や Ameba 内で起きている具体的な問題の紹介があり、アカウントの重要性について説明していただきました。 事業者講演の後、学校ごとに、発声練習も兼ねて自己紹介をしていただきました。（順不同） ・文京学院大学女子高等学校 ・自由学園男子部高等科 ・水戸葵陵高等学校 ・栃木県立宇都宮北高等学校 ・水城高等学校 自己紹介の後に高校生は 4 つのグループに分かれ、その後、ファシリテーター、書記、記録、参観者の紹介、事務連絡がありました。

	第二部：熟議「大人が作った子どものルール&マナーを考える」 　まず、高校生 ICT Conference について今一度、実行委員会委員長の米田謙三先生から説明をいただきました。その上で、「熟議」のポイントやグループディスカッションの進め方、ルールについての考え方、発表などについて解説していただきました。その後、それぞれのグループで熟議を進めました。 **第三部：グループ発表** 　各グループともプレゼンテーションソフトを活用して 4 分程度の発表を行いました。各グループの発表タイトルと発表概要は以下の通りです。 **グループ 1：** 「大人の理解とスマホの使い方」～身近な大人に理解してもらうには～ ・〇〇が作った子どものルール&マナー　大人、友達同士、学校、家庭 ・大人は偏見が多すぎる→影響の大小を想定できない、スマホを使いすぎると勉強しない ・高校生自身が小・中・高校生と保護者に向けて、講義する! ・大人も子どもも自分自身を見直して、お互いが理解する努力をすること! **グループ 2：** 「大人とつくる僕らのルール」 ・大人が作った子どものルール&マナーを考える　大人も守っていないのに単なる自己満足? ・社会の枠では大きすぎる→身近な学校の例で　禁止例と使用例 ・学校でのスマホの使用は…賛成 ・みんなで話し合って決めたルールを守る　自己判断の能力 　→お互いの意見を共有でき、子どもの意見も取り入れられる　守る人も多くなるのでは? **グループ 3：** 「スマホとマナーとわたしたち」～被害者と同じ立場に…～ ・マナーを守って使いましょう　ながらスマホしない、誹謗・中傷しない ・なぜ守らないのか 　→周りへの迷惑を無自覚、結果を考えない、話を聞いてくれる人がいない ・どうすれば守ってくれる? 　→目に見える形で体感させる→被害者の体験談、ドッキリ体験、CM やドラマ… 　　過激さ最悪の結果を考えることで、ルールに興味・関心を持ってもらう **グループ 4：** 「大人 VS 子供～SNS 編～」 ・大人が作った子どものルール&マナーについて考えよう　結局破ってしまうので

	は? ・疑問に思うルールの例　〇時以降スマホ禁止、中学校のルールで LINE が禁止になるなど ・大人が作った子どものルール&マナーについて考えよう ・大人：ネット、SNS 等の知識が子どもより少なく偏った人 　→その大人たちが今のルールを作っている→子ども：納得しない ・みんなで作ったルール&マナーについて考えよう　例)講習会、大人と子供で話し合う 　→大人と子供が納得できるルールになる! 　その後、11 月 3 日に開催されるサミットの代表選考を行ない、栃木県立宇都宮北高等学校が代表校に選出され、発表されました。 **全体講評　一般社団法人・情報教育研究所　代表理事　　永坂　武城　様** 　今年度、全国の高校生 ICT Conference を回っており、各地それぞれに特色がみられるが、各グループの熟議、発表について以下のコメントをいただきました。 グループ 1：未来に仮説を立てて議論していた。ルールへの裏メッセージを理解して、気づきを感じていた。 グループ 2：自主的に進められていた。会話の中から方向性を見つけていた。 グループ 3：他者の価値観を尊重して議論されていた。矛盾から答えを探っていた。 グループ 4：自分の意見を持っていて、本当の必要性・目的を探っていた。 総合的な印象：話し合いレベルを超えて熟議がされており、自己責任の範囲も考えられていた。 　また、ルール&マナーについて、ルール&マナーの目的や、状況や環境によって臨機応変に対応が必要となり答えは 1 つではないということ、常識の変化により守るべきもの変えるべきものがあって、その判断基準をどうしたらよいかということ、『思い込み（偏見?)』に関する注意点、自制心を高めるために優先順位をつけて必要なこととやりたいことを分け、計画を立ててやるべきことリストも作成してほしいといったお話しをいただき、高校生が今後考えていってほしいこと、実践していってほしいことについての貴重なお言葉をいただきました。
参加校：	自由学園男子部高等科、文京学院大学女子高等学校、栃木県立宇都宮北高等学校、水戸葵陵高等学校、水城高等学校
日　　時：	2015 年 10 月 11 日（日）10:30-17:00
場　　所：	東京ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行） 東京都中央区新川 2-4-7
参加人数：	熟議参加生徒　18 人 見学者　59 人（教員・教育関係者・その他） 合計：　77 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【第 1 班】５人

	水戸葵陵高等学校　２年　男子 栃木県立宇都宮北高等学校　２年　女子 栃木県立宇都宮北高等学校　２年　女子 文京学院大学女子高等学校　２年　女子 水城高等学校　１年　女子 〔ファシリテーター〕 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会　菅野 泰彦 〔書記〕 中央大学　倉澤 光治 【第２班】５人 自由学園男子部高等科　２年　男子 水戸葵陵高等学校　１年　男子 栃木県立宇都宮北高等学校　２年　男子 栃木県立宇都宮北高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 お茶の水女子大学　猪股 富美子 〔書記〕 目白大学　増村 千穂 【第３班】５人 水城高等学校　１年　女子 自由学園男子部高等科　２年　男子 水戸葵陵高等学校　２年　男子 栃木県立宇都宮北高等学校　２年　男子 栃木県立宇都宮北高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 鎌倉女学院高等学校　佐藤　正二 〔書記〕 目白大学　清水　諒子 【第４班】４人 水戸葵陵高等学校　２年　男子 自由学園男子部高等科　２年　男子 栃木県立宇都宮北高等学校　２年　女子 水城高等学校　１年　女子 〔ファシリテーター〕 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構　野沢　健太郎 〔書記〕 目白大学　阿部　壮一

主担当

大阪私学教育情報化研究会	米田	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡、工藤	庶務、受付
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	清水、野沢、河田、佐々木	
各地協力団体、事業者等		挨拶、講演、ファシリテーター、書記　他
内田洋行	佐藤、眞鍋	会場設営、機材準備等

5. 高校生 ICT Conference 2015 in 神奈川

概要	高校生、教員、企業関係者など 106 名の参加者を得て、**「大人が作った子どものルール&マナーを考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **司会進行・主旨説明** **特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム　理事　植田 威　様** 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明していただきました。 **開会の挨拶** **総務省関東総合通信局　情報通信部長　山口 浩　様** 総務省関東総合通信局の業務の内容紹介とあわせて、e-ネットキャラバンをはじめ、安心・安全な青少年インターネット利用環境の整備の取り組み及び高校生 ICT カンファレンスに期待する点について、お話をいただきました。 **経済産業省　商務情報政策局　情報経済課　課長補佐　北元 健太　様** 将来の経済産業の担い手である高校生が集まって行われる当カンファレンスの意義及び政府提言への期待について、お話をいただきました。 **第一部：「事業者講演」** **グーグル株式会社 公共政策部　　南 万理恵　様** **「インターネットの可能性：安心安全に楽しく使うために」** ネットやスマホを使う中で嬉しかったこと、嫌だったことなどを高校生に聞きながら、日本や世界で若者が上手にインターネットを使い勉強や社会貢献、開発を行っている事例を紹介して頂き、どうすればインターネットをよりポジティブに使えるかを考えるきっかけを提供して頂きました。高校生にとって将来必要になるであろう力（情報を見つける力、見つけてもらう力や、様々な人を巻き込み協同できる力など）にも言及して頂き、将来を担う人材として第２部の議論に挑む高校生への応援メッセージを頂きました。 **デジタルアーツ株式会社　経営企画部 経営企画課　工藤　陽介　様** **「スマホにひそむ危険から考えるネットのルール＆マナー」** デジタルアーツ社の提供する『スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ』を使用して、大人の考えたルール＆マナーについて改めて考えてみるという内容で講演してくださいました。 具体的には、「ネットで知り合った人に会いに行ってはいけません」「メッセージを送る時は相手の気持ちを考えよう」「ネットに個人情報を載せてはいけません」「歩きスマホをしてはいけません」「電車やバスの中では通話をしてはいけません」と

	いった既存のルールについて、一概にそうとは言えないのではないかという問題提起をし、第二部の議論のきっかけ作りをしていただきました。 **参加校　学校紹介　および　グループ分け** 　参加生徒全員が前に来て学校ごとに簡単に参加者紹介を行いました。 学校ごとに自己紹介をしたので少し緊張感も和らげました。その後グループ分けして７つに分かれました。 **第二部：熟議「大人が作った子どものルール&マナーを考える」** 　グループに分かれ神奈川県教育委員会、神奈川県立総合教育センターの方等がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。 　また企業の方もサポータとして入っていただきました。専門的な質問が出ると 　すばやく答えてくださいました。また書記は NPO 情報セキュリティフォーラムや情報科学専門学校の学生などが担当しました。事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。 　（詳細は別紙「熟議録」をご参照ください） **第三部：グループ発表** 　各グループともプレゼンテーションソフトを活用して４分程度の発表を行いました。 　（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください） 　その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11 月 3 日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、鎌倉女学院高等学校が代表校に選出され、発表されました。 　最後に、高校生 ICT Conference 実行委員長の羽衣学園高校　米田謙三先生より全体講評をいただきました。 　各グループの発表を振り返り、１つ１つポイント・キーワードをあげて丁寧にコメントをいただきました。 　最後に『これを機会にぜひ自分たちの学校に戻ってからも、「高校生自身の気づき」「年少の子どもに行動できる高校生」「次世代の保護者」としてしっかり行動してください。』とコメントいただきました。
参加校：	鎌倉女学院高等学校、鎌倉学園高等学校、湘南工科大学附属高等学校、 神奈川県立藤沢総合高等学校、神奈川県立横浜平沼高等学校、神奈川学園高等学校、クラーク記念国際高等学校、神奈川県立綾瀬西高等学校、神奈川県立横浜清陵総合高等学校、神奈川県立横浜国際高等学校、神奈川県立光陵高等学校、神奈川県立相模原中等教育学校、神奈川県立厚木西高等学校、神奈川県立大和南高等学校、神奈

	川県立湘南台高等学校
日　　時：	2015 年 10 月 4 日（日）10:00-17:00
場　　所：	学校法人岩崎学園　横浜西口 2 号館 横浜市神奈川区鶴屋町 2-17 相鉄岩崎学園ビル
参加人数：	熟議参加生徒　47 人 見学者　59 人（教員・教育関係者・その他） 合計：　106 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【第１班】７人 神奈川県立相模原中等教育学校　１年　男子 湘南工科大学附属高等学校　３年　男子 神奈川県立大和南高等学校　１年　女子 神奈川県立横浜国際高等学校　２年　男子 神奈川県立綾瀬西高等学校　２年　男子 鎌倉女学院高等学校　２年　女子 神奈川学園高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 鎌倉学園高等学校　　小林 勇輔 〔書記〕 NPO 情報セキュリティフォーラム　　中島 尚樹 【第２班】７人 鎌倉女学院高等学校　１年　女子 神奈川県立相模原中等教育学校　１年　女子 神奈川県立綾瀬西高等学校　１年　男子 湘南工科大学附属高等学校　２年　男子 神奈川県立横浜国際高等学校　１年　女子 神奈川県立大和南高等学校　１年　男子 神奈川学園高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 鎌倉女学院高等学校　　工藤 由希 〔書記〕 情報科学専門学校　　川又 一矢 【第３班】７人 鎌倉女学院高等学校　１年　女子 神奈川県立相模原中等教育学校　１年　男子 神奈川県立大和南高等学校　１年　女子 神奈川県立横浜国際高等学校　１年　女子 神奈川県立横浜平沼高等学校　１年　男子 神奈川学園高等学校　１年　女子

	湘南工科大学附属高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 鎌倉女学院高等学校　佐藤　正二 〔書記〕 情報科学専門学校　　猿渡 浩平 【第４班】７人 鎌倉学園高等学校　１年　男子 神奈川県立大和南高等学校　１年　女子 鎌倉女学院高等学校　１年　女子 神奈川県立横浜国際高等学校　１年　男子 神奈川県立厚木西高等学校　１年　女子 クラーク記念国際高等学校　３年　男子 神奈川県立横浜平沼高等学校　１年　男子 〔ファシリテーター〕 神奈川県立総合教育センター　　小澤 美紀 〔書記〕 情報科学専門学校　　出雲 圭佑 【第５班】７人 神奈川県立大和南高等学校　２年　男子 神奈川県立横浜平沼高等学校　１年　男子 クラーク記念国際高等学校　１年　男子 神奈川県立湘南台高等学校　２年　女子 神奈川県立横浜国際高等学校　１年　男子 鎌倉女学院高等学校　１年　女子 鎌倉学園高等学校　１年　男子 〔ファシリテーター〕 神奈川県立総合教育センター　　栗田 泉 〔書記〕 NPO 情報セキュリティフォーラム　　柿本 圭介 【第６班】６人 神奈川県立綾瀬西高等学校　１年　男子 神奈川県立大和南高等学校　２年　男子 神奈川県立横浜清陵総合高等学校　３年　男子 クラーク記念国際高等学校　１年　男子 鎌倉女学院高等学校　２年　女子 神奈川県立藤沢総合高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 神奈川県教育委員会教育局　　橋本 雅史

	〔書記〕 お茶の水女子大学　　佐々 日向子 【第７班】６人 鎌倉女学院高等学校　２年　女子 神奈川県立綾瀬西高等学校　３年　男子 神奈川学園高等学校　２年　女子 神奈川県立大和南高等学校　２年　女子 神奈川県立横浜清陵総合高等学校　２年　男子 神奈川県立光陵高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 情報科学専門学校　　川上 隆 〔書記〕 慶応義塾大学　　山本 理恵子

主担当

NPO 情報セキュリティフォーラム	植田、廣瀬	司会、庶務
安心ネットづくり促進協議会	白戸、吉村　他	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	工藤　他	受付、庶務
岩崎学園		会場、ファシリテーター
各地協力団体、事業者、大学等		挨拶、講演、ファシリテーター、書記、庶務　他

6. 高校生 ICT Conference 2015 in 石川

概要	高校生、教員、企業関係者など 74 名の参加者を得て、**「大人が作った子どものルール&マナーを考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　羽衣学園高校　米田 謙三　先生（司会・進行）** これからの進め方を紹介、ICT カンファレンスの意義や目的などあわせて本日の流れも紹介しました。 **開会の挨拶** **北陸総合通信局　局長　　星 克明　様** 青少年のネット利用トラブルや被害等は年々増加しており、県内でも不適切画像の投稿増加等、情報モラルが低下していることを心配している。一方で、インターネットは有益で楽しいものであり、危険を理解した上でマナーを守って利用することが必要である。本日は熟議を重ね、皆さん一人一人が考えていただきたい。とコメントいただきました。 **内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付 青少年インターネット環境整備推進担当　参事官補佐　清水 泰貴　様** 高校生 ICT カンファレンス取り組みの意義及び内閣府の関わりについてもあわせて紹介いただきました。 **第三部　　事業者による講演** 企業から、以下の様な内容で発表いただきました。 **「KDDI の安全・安心への取り組み ～KDDI ケータイ教室」** **KDDI 株式会社 渉外部 水谷 哲也　様** 子どものケータイ・スマホ利用トラブルの事例として「依存」「人間関係」「炎上」「出会い・犯罪」をキーワードに KDDI 安全教室の動画も見せながらお話しいただきました。困ったときには事態が深刻になる前に相談できる環境作りが必要であること、正しい知識で危険を予知し、かしこく使いこなすことが大切であるとお話しいただきました。 **「スマホ・ケータイのルールを考えよう」** **北陸携帯電話販売店協会 谷村 紗愛　様** 最初に販売代理店の役割、携帯ショップの仕事について簡単にご紹介いただきました。 その後「ルール」について目的、効果、ペナルティ、確認、改善、それぞれの視点からの考え方についてアドバイスいただき、第二部の議論のきっかけ作りをしてい

ただきました。

参加校　学校紹介　および　グループ分け

　まず、今回のテーマについてのイントロダクションとして、ルールとマナーについて、どのような視点で進めていくかを説明し、参加校紹介を行いました。その後グループ分けして６つのグループに分かれました。

第二部：熟議「大人が作った子どものルール&マナーを考える」

　金沢星稜大学の学生がファシリテーターとなり、高校生熟議を開始しました。
「大人のルール・マナー」、「大人に注意されること・よく言われること」、「自分たちが考えるルール・マナー」等、それぞれについて高校生たちは付箋紙に考えていることを提示していき、活発な意見を出し合っていきました。
ネットの問題については大人が知らな過ぎるといった問題点を提示しつつ、その大人に向けた発信方法を検討しているグループもありました。ルールとマナーを深く考え込み、分析していたグループもありました。
今回のテーマは『大人が作った子どものルール&マナーを考える』ということで「高校生だからいえる提言」をキーワードにさらに付箋紙などを使いながらまとめていきました。付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で意見を整理分類して、各グループでパソコンを使ってパワーポイントにまとめて行きました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました

第三部:グループ発表

　各グループ３分目途でまとめたパワーポイントや模造紙を使って発表が行われました。
1 班は「スマホ免許」、2 班は「子供のネットトラブルと解決策」、3 班は「サイバープロテクト強化法」、4 班は「考察」、5 班は「親子の負の循環」、6 班は「自分たちのネット社会について」と題して、高校生らしい柔軟でユニークな意見や提言などが発表されました。

その後、11 月 3 日に東京で開催されるサミットへの石川からの代表を選考、僅差で石川県立七尾高等学校が代表校に選出され発表しました。

講評　　金沢星稜大学 教授　　村井 万寿夫　様

　各グループの発表を振り返り、１つ１つポイント・キーワードをあげて丁寧にコメントをいただきました。
最後に「今朝、集合した時は他人同士の高校生たちが、熟議の中で打ち解け合い、各班とも活発な議論を重ねて特徴のある意見を発表しており、どの班も優劣をつけがたい。来年も石川県で開催するので、このような活動を友人や他の学校にも広げていただくことをお願いしたい。」と締めくくられました。

参加校：	（1）金沢地区 6 校 金沢向陽高等学校、金沢北陵高等学校、金沢商業高等学校、 金沢学院東高等学校、金沢二水高等学校、金沢辰巳丘高等学校 （2）能登地区 4 校 飯田高等学校、七尾高等学校、輪島高等学校、羽咋高等学校 （3）加賀地区 3 校 小松商業高等学校、小松高等学校、大聖寺高等学校
日　　時：	2015 年 9 月 13 日（日）10:00-17:00
場　　所：	金沢商工会議所 金沢市尾山町 9 番 13 号
参加人数：	熟議参加生徒　32 人 見学者・関係者　42 人（教員・教育関係者・その他） 合計：74 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【第１班】”おにぎり弁当”　５人 金沢辰巳丘高等学校　２年　男子 輪島高等学校　２年　女子 金沢北陵高等学校　３年　女子 小松高等学校　２年　男子 金沢向陽高等学校　３年　男子 〔ファシリテーター〕 金沢星稜大学　中谷 裕二 【第２班】”パックマン☺　５人 金沢商業高等学校　２年　女子 金沢北陵高等学校　２年　男子 金沢辰巳丘高等学校　３年　男子 輪島高等学校　２年　女子 金沢向陽高等学校　３年　男子 〔ファシリテーター〕 金沢星稜大学　寺脇 成紗 【第３班】　５人 大聖寺高等学校　２年　男子 七尾高等学校　２年　女子 金沢商業高等学校　２年　男子 金沢向陽高等学校　３年　男子 金沢二水高等学校　１年　男子 〔ファシリテーター〕 金沢星稜大学　齊藤 桃

	【第４班】６人 小松商業高等学校　２年　女子 金沢二水高等学校　１年　男子 七尾高等学校　２年　男子 金沢向陽高等学校　３年　男子 飯田高等学校　２年　女子 羽咋高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 金沢星稜大学　宮元 麻巳子 【第５班】５人 大聖寺高等学校　２年　男子 金沢北陵高等学校　１年　女子 小松商業高等学校　２年　女子 金沢学院東高等学校　２年　男子 飯田高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 金沢星稜大学　稲田 加奈 【第６班】”チーム　ユリア″　６人 小松高等学校　２年　男子 金沢向陽高等学校　３年　男子 飯田高等学校　２年　女子 七尾高等学校　２年　女子 金沢二水高等学校　１年　男子 羽咋高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 金沢星稜大学　塚田 由利亜

主担当

大阪私学情報教育化研究会	米田	司会
金沢星稜大学	村井	地域実行委員長、ファシリテーター手配
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡	庶務
総務省　北陸総合通信局	坂戸　他	庶務、メディア対応
北陸携帯電話販売店協会	池崎、谷村	講演、庶務
KDDI 株式会社	辻岡　他	講演、庶務
石川県警察本部	本田	庶務
石川県立金沢向陽高等学校	林	記録
各地協力団体、事業者等		講演、ノベルティ　他

7. 高校生 ICT Conference 2015 in 長野　第一回

概要	高校生、教員、企業関係者など 43 名の参加者を得て、**「大人のルール&マナーから考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　長野県教育委員会 心の支援課　平林 洋一　様** 高校生 ICT カンファレンスの意義や目的とあわせて本日の流れも紹介しました。 開会の挨拶 **長野県教育委員会教育長　伊藤 学司　様** 高校生 ICT カンファレンス長野大会への期待や高校生熟議の意義・大会後の取組についてお話をいただきました。 **文部科学省スポーツ・青少年局参事官（青少年健全育成担当）付青少年有害環境対策専門官　八木澤 寛　様** 高校生 ICT Conference の意義及び文部科学省の役割についてもあわせて紹介いただきました。 **第四部　　事業者による講演** **『インターネットを過去と未来から考える』** **ソフトバンク株式会社　ＣＳＲ室　田島 泉　様** これまでのインターネットの発展を振り返りながら、同時にトラブルもさまざまに変化し、国や民間でその対策と啓発が行われてきました。 次代を担う高校生の皆さんが、これまでの人々の経験に学び、インターネットをよりよく活用していくことをお話しいただきました。 また、クラウドにつながる進化の象徴として、感情認識パーソナルロボット「Pepper」のお話しもありました。 **『アカウントについて考える』** **株式会社サイバーエージェント　メディアサポート室　中村　広毅　様** アカウントの用語説明から始まり、企業、サービスがアカウントを用いて何を管理しているのか、アカウントの不正ログインの事例、アカウント情報を教えてしまうリスクに関して講演してくださいました。 各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も　現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など　いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。

	第二部：熟議「大人のルール&マナーから考える」 まず、今回のテーマについてのイントロダクションとして、ルールとマナーについて、どのような視点で進めていくかを説明し、参加校紹介を行いました。その後グループ分けして 4 つのグループに分かれ熟議を進めました 第三部:グループ発表 各グループ 3 分程度の発表を行い､それぞれの発表に対して講評をいただきました。 ＜チームＡ：グループ村＞ ・大人と高校生は変わらない。子供は大人を見て育つので、大人が正しい道を歩むことが必要 ・フィルタリングの技術や法律ではなく、教育による根本的な部分を浸透させることが必要 ◇講評：伊藤 学司　様（長野県教育委員会 教育長） ルール、マナーとなると子どものことばかりクローズアップされがちだが、大人こそ免疫がないうちから携帯電話を使い始めている。ルールを作っても大人が守らないのでは意味がないので、家庭内のルールは、親も一緒に守れるようなルール、もしくは大人と子どもで差をつけたルールを作り、大人も子どもも守ることが必要。 ＜チームＢ：あかさまみ＞ ・大人・・・電車内で優先席に座ってスマホ操作、マナーモードに設定していない。 ・子供・・・学校内で授業中に携帯電話を利用、1 日の使用時間が長い →マナー破りが人間関係を悪化させて、犯罪が起こる ・犯罪を防ぐには、家庭内でルールを作り、ネットの使い方を再確認するなど、知識を得る場を大人が作ることが必要。 ◇講評：八木澤 寛　様（文部科学省スポーツ・青少年局参事官（青少年健全育成担当）付青少年有害環境対策専門官） 現状や課題に対する解決策がうまくまとめられている。解決策はもっと独特なアイディアが欲しかった。先輩が後輩に教えるなどの取り組みがあると面白いかもしれない。 ＜チームＣ：平均 2 年生＞ ・大人は、携帯電話を常に携帯してほしい。2 台持ちは正しいのか？を考え直してほしい。 ・スマホに依存しない生活が重要、携帯を介さずに直接コミュニケーションをとるべき。 ↓ ・高校生も大人もネットについて勉強したうえでルールを見直すべき ・得た学びの発信をしていきたい

◇講評：原 良通　様（長野県教育委員会 事務局 心の支援課）
大人は携帯を携帯していないというのは、その通り。デジタルの処理では誤解が生じるので直接コミュニケーションをとることが大人も子どもも必要。今回の学びを発信していって欲しい。

＜チームＤ：現実主義＞
規則を守らないので、問題が発生する。規則を正しく守って、利用すれば、犯罪・事件に巻き込まれることが減少する。
＜対策＞
・携帯依存させないために、依存後の悪影響をCMや広告でアピールする
・国が報酬を与える。ポイント制にして買い物ができるようにする（例：ゲーム依存しないために18歳未満だけの限定報酬を付ける。など）
・個人情報を載せないために、18歳未満の画像アップロード、SNSのタグ／ハッシュタグ禁止、利用制限の簡略化する

◇講評：ソフトバンク株式会社 ＣＳＲ室　石原 友信　様
携帯を使いこなしている皆さんだからこそ、よく分析できており、第1回目ながら提言までありがとうございます。企業としても努力すべきという提言もありがとうございます。
ひとつ質問があります。皆さんの使い方として、ネット上で知らない人同士で会話したりするが、今回のカンファレンスで知らない人同士がリアルで出会って話した感想を教えてください。
・実際に会った方が目と目で会話できる心のキャッチボールができる。会って話すと感情や想いが顔を見て分かる。
・ネット上で共通の趣味がある子と出会う機会はあるが、今回のように学校・学年が違う人たちと討論できるのは、直接会うことのメリットで LINE のような文章のやりとりでは、できない。今足りていないコミュニケーション能力が養われていくので、直接会って話すことが大切。
・ネット上での会話だと本当にそう想っている？私には関係ないかも・・・など不信感を抱くことがあるが、同じ世代の人と話すことで同じ意見を持っていることが身近に感じることができる。
・ネット上の文章のやりとりで返答がすぐに返ってこないが、直接会って話すとすぐに返答が返ってくるので、会話が広がる。

全体講評　茨城県メディア教育指導員連絡会　堤 千賀子　様
以下コメントをいただきました。
「長い熟議、本当にご苦労様でした。最後のグループ発表にあった「今日楽しかったよ」が4グループ全ての感想だと思いたいです。顔を見て話すことってすごくエネルギーが必要だが、楽しいというのを今日感じてもらえたのでは？
私は、茨城のPTAの会長をやり、8年前からPTAネットの啓発活動を始めて、5年

	前からは、このICTカンファレンス（熟議）に携わっています。第1回の長野大会で長野の高校生が何を考えているのかをお聞きできることは楽しみでした。 今日のテーマは、大人のルール・マナーを見直そうでしたが、いつのまにか自分たちの生活を振り返っていたのではないでしょうか？熟議の中で面白いと思ったのは、「いつもつながっていたいからスマホを持っている。」という共通認識があるということ。いつもつながっていることの良し悪しは分からないけど、つながっていなければいけない状況の中にいることを皆が意識している。 「ネットだけではなくて、リアルなコミュニケーションが必要」とみんなが気付けたのは、素晴らしいです。このリアルを日常でも感じて欲しい。 携帯依存、やりすぎについては、自分だけは大丈夫と言っている人がいた。これまでの研修の中で自分の子どもだけは大丈夫と思っている大人に沢山出会いました。 今日も、自分は大丈夫だと思っているけど、使いすぎてしまっていることに気付いている子がいました。 いつもつながっていることはどうなのか？立ち止まって考えていました。全てを知りあっている必要があるのか？ネットで全ては伝わらない。そのことに気付けていたことが素晴らしかったです。 心でつながりたいときはネットが全てではありません。 茨城（水戸）の葵陵高等学校の生徒会の子がICTカンファレンス後に作成した冊子について紹介させてください。 「これまでに生徒のソーシャルメディアの利用について先生から繰り返し指導を受けてきた。先生から注意を受けるのではなく、生徒同士で問題を指摘し合うことが解決することがトラブル回避への近道になるのではと考えました」冊子の中で想いやルールが掲載されています。 ＩＣＴカンファレンスで出会った皆さんの次のステップとしてこんな素晴らしいことをやっている生徒がいることを知ってほしいと思い、紹介させていただきました。表紙にあるGREE、twitterのロゴは全て、生徒が会社に電話をして著作権を貸してくださいと許可をもらったものです。 今日の気付きが第2回長野大会につながり、大人と君たちが次のIT社会を作るためにいいルールが作れるように期待しています。第2回までの間もコミュニケ―ションをとりあって、より深い議論をしてほしいと思います。 今日はありがとうございました。」
参加校：	長野県松本県ヶ丘高等学校、長野県茅野高等学校、長野県伊那北高等学校 長野県東御清翔高等学校、長野県明科高等学校
日　　時：	2015年9月5日（土）13:30-17:00
場　　所：	松本市駅前会館 松本市深志２丁目３番２１号
参加人数：	熟議参加生徒　17人 見学者・関係者　26人（教員・教育関係者・その他） 合計：43人

熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【チームＡ：グループ村】人数４人 茅野高校　　３年　男 伊那北高校　　２年　女 松本県ケ丘高校　２年　男 松本県ケ丘高校　２年　女 〔ファシリテーター〕 召田誠（長野県明科高等学校教諭） 【チームＢ：あかさまみ】人数４人 明科高校　　３年　男 伊那北高校　　２年　女 松本県ケ丘高校　２年　女 松本県ケ丘高校　２年　女 〔ファシリテーター〕 村山美耶子（長野県篠ノ井高校犀峡校教諭） 【チームＣ：平均２年生】人数５人 明科高校　　３年　男 伊那北高校　　２年　女 松本県ケ丘高校　２年　男 松本県ケ丘高校　２年　女 東御清翔高校　　１年　女 〔ファシリテーター〕 高杦博之（総務省信越総合通信局） 【チームＤ：現実主義】人数４人 明科高校　　３年　女 茅野高校　　３年　男 松本県ケ丘高校　２年　女 松本県ケ丘高校　２年　女 〔ファシリテーター〕 中村広毅（株式会社サイバーエージェント）

主担当

長野教育委員会	平林、中沢他	司会、ファシリテーター手配，庶務、受付
安心ネットづくり促進協議会	吉村　他	事務局、庶務
ソフトバンク株式会社	石原、田島	事務局、庶務

草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡	庶務、受付
各地協力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、ファシリテーター、記録（撮影）、　他

8. 高校生 ICT Conference 2015 in 長野　第二回

概要	高校生、教員、企業関係者など 50 名の参加者を得て、**「大人が作った子どものルール&マナーを考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　長野県教育委員会 心の支援課　平林 洋一　様** 高校生 ICT カンファレンスの意義や目的とあわせて本日の流れも紹介しました。 開会の挨拶 **長野県教育委員会事務局心の支援課　課長　　原　良通 様** 以下お話をいただきました。 「前回を振り返ると、皆さんが熟議の可能性を感じたと思う。アンケートでは今後に生かせるという意見があった。皆さんがどんどん発信していきたい、生徒会で考えていきたい、周りと話し合って発信していきたい、という思いを強く感じた。 今日初めて参加する皆さんも一緒に熟議に入ってほしい。生徒の皆さんがそれぞれ学校に戻って今日の内容を伝え実践してほしい。」 **総務省　信越総合通信局　情報通信部電気通信事業課　課長　高杦　博之 様** 以下お話をいただきました。 「前回の開催ではファシリテーターで参加した。熟議は皆さんがしっかり話が出来ることが大事でその目的は達成出来ている。 今年総務省は通信自由化 30 周年の年。NTT 独占の時代から、安く早く便利に通信を使ってもらうために自由化された。いかに自由に使ってもらうか、上手に使うかが基本となる。今回初めて参加する人もうまく形として作り上げてほしい。前回は勢いで議論していた面もあるが、今日は成果をお願いしたい。」 **第五部　　事業者による講演** **「ネットは匿名か？」** **株式会社ディー・エヌ・エー　カスタマーサービス部　部長　西　雅彦　様** 以下お話をいただきました。 「当社はゲームだけでなく、様々、生活に密着したサービスを提供している。 高校生としていかにネットの使い方をしていくかが将来に役立つ。これまで、ネットで炎上した場合、個人が特定され晒される危険がある。また、損害賠償の金額は、悪ふざけの範囲にとどまらない。ネットは匿名で使っていてもどこの誰かわかる。 SNS 企業では、サイトパトロールを行っている。 ソーシャルゲーム開発の裏側では、企画メンバーが自分たちで使ってみて開発に生かしている。必ずしも理系出身とは限らない。開発のキーワードは「スピード」である。 高校生の皆さんは正しい知識を身につけて、安心安全にネットを楽しんでほしい。」

	各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も　現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など　いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。 **第二部：熟議「大人が作った子どものルール&マナーを考える」** まず最初に、第１回大会参加各校代表者より第１回大会の振り返りを行いました。 ＜明科高校＞ 全校生徒に伝えたい。ベネッセの取組みを参照したが難しかったので、歩きスマホと歩きイヤホンに取り組んだ。どう伝えるか、携帯会社の歩きスマホの動画からヒントを得て、動画を作っている。 ＜伊那北高校＞ 独自のルールブックを作りたい。現在存在するグレーゾーン、なぜそうなったのか生徒が納得して守れるルール。節度をもった携帯利用を目指したい。 ＜茅野高校＞ 茅野高校から改善していくことを企画中。まずは茅野高校で１週間どうしていくかの期間を作っていこうと考えている。 ＜東御清翔高校＞ 前回の討議を通して、周囲の人のことや使い方をよく考えるようになった。 1 年生の参加は私だけなので、生徒会に働きかけはできていないが、11 月のＰＴＡ会合で携帯のルールやマナーをとりあげることになった。それに参加したい。 ＜松本県ヶ丘高校＞ 生徒同士の話し合いが出来た。生徒会から発信を考えている。学んだことをまとめて活動していきたい。 その後グループ分けして５つのグループに分かれ、熟議を進めました。 **第三部:グループ発表** 各グループ 3 分程度の発表を行い、それぞれの発表に対して質疑を行いました。 ＜Ａグループ・つまんないかも＞ 授業中のケータイのこと、ネットのことを議論した。生徒の現状や先生の現状を話し合った。 今の授業に、先生がタブレットを使ってほしいという要望がグループ内から出た。ネットを授業で使ってほしい。理由は、教科書よりも映像のほうが分かりやすいし、興味をもてる。

	先生方が授業にネットを使って組み込んでくれれば、生徒で寝る人も減るのではないかと考えた。それでも授業中にケータイを使っちゃう生徒は自己責任ではないか。 先生にネットを授業で活用してほしいのは、某高校の地理の先生の話があり、その先生はＰＣとプロジェクターでその場で検索して、用語の画像を投影したり解説をしてくれる。みんな興味をもって、飽きずに集中出来るモデル授業。それを他の先生も取り入れてほしい。 まとめをどうやって県内に広めるか、自分たちの高校で試してみてあらためて改善し続けて、最後に広めていければいいと考える。授業でネットを使うのは可能性がある。 （Q） ネットやタブレットを授業で使うのはいいことと思うが、どういう課題があってそれを使う話になったのか？ （A） 授業が黒板にかいて読む、その授業では関心がいかない。授業に興味を持つためには、どうするか、生徒のスマホを使うのは他のことに使いそうで実現が難しい。先生に授業を面白くしてもらえれば、授業中にスマホをしていた生徒も興味をもつのではないかと考えた。 ＜Ｂグループ・おちゃめ高校生徒会＞ 大人に賛成できる意見として、自己管理能力がない人にはケータイを持たせない。 他人の悪口は言わないなど必要最低限のことが出た。 大人たちの使い方どうなのか、スマホの便利さに気付いてほしい。良い面、悪い面のある使用時間、高校での使い方も議論した。 メリットは、犯罪の防止や他人の中傷防止が出来る。デメリットは、勉強で使いたいのにリビングでは使えないなど。 （ここからは小芝居で・ＰＴＡ総会にて） 大人が決めたルールは反発する。生徒がルールをきめる。高校生は自己管理ができるので大人や先生がルールを決めるのは腹が立つ。ＰＴＡ総会に子供から親に講習会で説明をする。 生徒たちはしっかり使えるようになった。 （Q） 生徒自らルールを決めるとき、まとめるときに難しいことは？ （A） 生徒のいろんな意見を聞いて纏めることが中心となる。全校アンケートを生徒会でまとめる。全員の意見をとることが必要だがそれが難しい。 ＜Ｄグループ・まじめーず＞

	真面目なメンバーが集まって熟議が進んだ。 結論として、生徒会交流会を設けて、学校でのスマホの使用のルール、マナーを持ち寄り対策を発表する。各校の具体例として、今のスマホのマナーを常識化すること。そのために、先生からルールを強制されるのではなく、生徒が自主的に働きかけることが大事。 スマホの利用時間のアンケートをとり学力との関係とグラフ化、目に見えるかたちで提示することで、自覚や自主性が身に付く。 議論として、既存のルール、マナーを話し合った。授業中のスマホの禁止、授業に集中できない。学校側からアンケートをとる、使用状況、頻度を学校側が把握する。ながらスマホは危険。自転車に乗りながらイヤホンをするのは安全上危ない。 対応策として、 ・自主的にスマホの電源を切る ・生徒会から呼びかけをする、意識づけ ・生徒同士で話し合う機会をもうける ・出た意見を先生、保護者から意見をもとめる ・身近な問題として認識させる、 ・グラフなど目に見えるかたちにする 結論に戻り、しっかり出来るメンバーばかりではないので、各学校で生徒会からみんなの意識を変えられたらと思った。クラス対抗で、使用時間の少ない発表など、クラスで意識がかわるのではないか、企業の方には、スマホ時間を一目でわかるメールを送ってもらう、目で見てわかるようにしてほしい。 今日の機会を通して感じたのは、各校が集まる場をもうければ、他にも学校活動の意見交換にもなって、一石二鳥と考える。 （Q） 授業中のスマホの使い方、自主的にスマホの電源を切る、コントロールする、何が一番ポイントか？ （A） 高校生は小学校の頃から教育をうけて、ルールではなく、常識としてとらえる。そのために 自分の学力、時間をグラフにする。状況をみて自主的に考える。目に見えたほうがいい。 ＜Ｃグループ・おうちＯＵＴＩ＞ 大人のルール、マナーには納得していない部分もあるが、ルールのおかげでいいこともあった。授業中の没収、使用時間の制限、学力を考えると制限があったほうがいい。 セキュリティでは、メールは自分で迷惑メールを登録できる機能などを活用していくのが大事。 悪い面では、システムで解決できないことはある。うまく使えればよいが、機能だけで解決できないこともある。使用制限の甘さでは、個人の権限としてゆるく見る

	のはルールの意味がない。 大人は子供に個人情報を出すなというが、大人も出している。説得力が欠けるのではないか。 高校生が自ら考えるルール＆マナーでは、学校では預けた状態で昼休み以外は使わない。 教室内の使用禁止などが上がった。マナーでは、学ぶ姿勢を考えること、友だちの前では使用を控えること、家庭では自分で時間を決めることが出た。 ルールをどのように実行、発信していくかでは、生徒会役員が交流会や高校生合宿などで、役員で話し合う場をより多く設ける。自分たちの発信ができて、周りの高校のルールを知ることも出来る。 どうやって広めたらいいかについては、紙では捨てられる。動画で伝えれば頭に残り、ただのルールではなく話題性をもって広めるのが良いと考えた。 3 年間しかない高校生活をスマホでうめるのはもったいない。もっと大切なものは多くある。 ルールで強制されなくても、気づいてくれれば必然と減る。このような場で出た案を県内で実行して、高校生活での利用を考えていきたい。 （Q） 広め方のところで、紙ではなく動画はよいアイデアだが、どのような動画でどう伝えたいのか？ （A） 明科高校では身近な歩きスマホなどを動画でとって、学校で見せているが、他校でも交流して広めていきたい。いまは校内向けだが、より力のある組織、政府や企業が、見ていておもしろい動画をユーチューブなどに流してもらえれば話題性が出る。ルールを広められる。 ＜Ｅグループ・Ｅ－ｇｉｒｌｓ＞ ２つに絞った。 それ以外の企業の話では、例えば通信量で１日の通信量を決めてもらうとか、アプリのダウンロードでは、親の承認が必要とか、企業側にやってほしい。 極論だが、成人までキッズケータイしか持てないようにするアイデアも出た。 ルールとマナーでは「時間制限を作ること」。親や学校を通して、ケータイの時間を制限すると必然的にできなくなり、マナーもよくなると考える。 もっと友達と話をすること、近くにいるのに顔を見ない人、ラインをする人、もっと「目を見て友だちと話を深める」リアルに話をするのがよい。 普及させる方法として、時間制限は、校則に近いものにする。親に協力してもらい、ＰＴＡで提案してもらう。親の意識も高まる、勉強にも手が回らない人も改善させたい。 目を見てコミュニケーションをとることの普及方法は、キャンペーンでポスターを作る。県でポスターを集めて、公共の施設に貼る。学校単位、クラス単位で協力、

	結束も高まり一石二鳥。ぜひケータイから離れて、みんなと話をしたり、楽しいことを進めていければよい。 （Q） 制限を設けることをたくさん言ったが、皆さん本人は納得できるのか？納得できない人にどう説得するのか？ （A） 個人的には制限に納得できるが、そうでない人には、家族のだんらんで家族と一緒にいる時間を長くする、友達と遊ぶ時間を大切にする、人と直接かかわることで必然的に時間が制限されるのではないかと考える。 **全体講評　NPO 法人ぐんま子どもセーフネット活動委員会 理事長 飯塚 秀伯様** 以下コメントをいただきました。 「とても白熱した議論を聞いていて心強い。一人一人がしっかり考えていることがよくわかった。 今回のテーマの「ルール」、なぜその議論が必要なのか。親側からみたルールは何かを話させていただくと、それは親が大切にしているものがある。家庭の環境を大切にしている。皆さんから学校のことを聞きたい、一緒にＴＶを見て盛り上がること、大切にしていることがある。そこにスマホが入る、親は怖い。今まで大切にしたものが壊れたらどうしよう。怖ければ怖いほどすごく大切にしたものを守りたい。ルールを作る。 ある親がスマホを与えたら家の環境が壊れたという。大切にしていたものがスマホですべてが台無しになった。親の考え、立場を頭の片隅に入れると親や先生の言うことが理解できる。 今回の熟議では、スマホは悪いのかいいのか、一人一人の意見を述べることで皆さんの頭が整理された。始まる前よりも今の方がクリアになった。決意が芽生えた。 一人一人がゆっくりと話す最大のメリットはここにある。自分が言いたいことは普段なかなか言えないが、自分の考えを遮られることはなく有効ですごく白熱した議論になった。 さまざまなチーム発表からキーワードが見えた。 「自主性」上から言われたのではダメ。 「生徒同士」集まりが有効ではないか。 「時間制限」「対面の大切さ」これではまずい、だめだ、一人一人が考えていた。 困っていた、悩んでいたことをうっぷんを晴らす人もいた。 「可視化」、データ、アンケート結果、成績と利用時間の相関関係、動画、時間制限、アプリの利用など、高校生の提言は心強かった。企業に対する考えも意義があった。 ルールから常識への視点はおもしろい。いままで与えられたルールでしかなかったものが自然と「常識」となること。小学校、中学校、高校生、これが常識となるともっとうまく使える。そのためにどう過ごしたらいいかは次の課題になる。 それから、親の態度の話は重要で、こんな話があった。

	左手にフライパン、右手にケータイのお母さんに子供が相談にきた。次の日にお母さんはその相談を覚えていなかった。その子は涙ながら訴えてきた、親の姿勢も考えなければならない。ＰＴＡセミナーなどでも伝えなければならない。 皆さんがこの熟議をどう伝えるか、各グループで考えていたが、2 年くらいで代わってしまうある行政の人がこんなことを言っていた。「仕事の内容は伝えることはできるが、情熱や哲学は伝えられない。」仕事内容は機械的に伝えられるが、大切なのは伝えるときに、「情熱」まで伝える仕組みづくりを考えていくこと。1 年生と 2 年生をこの場に呼んでおく方法もある。伝えただけでは来年までに終わってしまう。白熱した議論を心にしまい込んだ人がつなぐサイクルにする仕組みづくりを考えるとよいのではないか。 皆さんは精神力や集中力という言葉は好きだし、大切なものと考える。それをわかりやすく言うと、自分の心をコントロールすることと言い換えられる。自分の心をうまくコントロールするためには静寂が必要。 孤独な時間が集中力を生む。孤独になりたい時間に、メールや LINE に振り回されないような周りとの関係性、家族同士、学校同士、長野県の高校生同士がルール作りをしていく。 今日は皆さんに元気をもらった気がします。ありがとう。」
参加校：	長野県松本県ヶ丘高等学校、長野県茅野高等学校、長野県伊那北高等学校 長野県東御清翔高等学校、長野県明科高等学校、長野県上田高等学校、長野県豊科高校
日　　時：	2015 年 10 月 3 日（土）13:30-17:00
場　　所：	松本市駅前会館 松本市深志２丁目３番２１号
参加人数：	熟議参加生徒　25 人 見学者・関係者　25 人（教員・教育関係者・その他） 合計：50 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） ＜Ａグループ・つまんないかも＞人数５人 伊那北高校　　２年　女子 茅野高校校　　３年　男子 豊科高校　　２年　男子 松本県ケ丘高校　２年　男子 松本県ケ丘高校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 　召田　誠　（長野県明科高等学校教諭） ＜Ｂグループ・おちゃめ高校生徒会＞人数５人 明科高校　　３年　男子 伊那北高校　　２年　男子

	上田高校　　２年　男子 豊科高校　　２年　女子 松本県ケ丘高校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 　村山　美耶子　（長野県篠ノ井高校犀峡校教諭） ＜Ｃグループ・おうちＯＵＴＩ＞人数５人 明科高校　　３年　男子 伊那北高校　　２年　女子 上田高校　　２年　女子 茅野高校　　３年　男子 松本県ケ丘高校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 　本田　真（長野県茅野高校教諭） ＜Ｄグループ・まじめーず＞人数５人 明科高校　　３年　男子 伊那北高校　　２年　女子 上田高校　　２年　女子 松本県ケ丘高校　２年　女子 松本県ケ丘高校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 　西　雅彦（株式会社ディー・エヌ・エー） 　郷原　玲（長野県松本美須々ケ丘高校教諭） ＜Ｅグループ・Ｅ－ｇｉｒｌｓ＞人数５人 明科高校　　３年　女子 東御清翔高校　　１年　女子 豊科高校　　２年　女子 松本県ケ丘高校　２年　女子 松本県ケ丘高校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 　中村　広毅（株式会社サイバーエージェント）

主担当

長野教育委員会	中沢、平林他	司会、ファシリテーター手配，庶務、受付 記録（撮影）
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務
ソフトバンク株式会社	石原、	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	工藤	庶務、受付
各地協力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、ファシリテーター、記録（撮影）、　他

9. 高校生 ICT Conference 2015 in 大阪　第一回

概要	第１回は前週の台風の影響で参加校が３校にとどまりましたが、高校生、教員、企業関係者など約 70 名の参加者を得て、**「大人のルール&マナー」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　羽衣学園高校　米田　謙三　先生** 　これからの進め方を紹介、ICT カンファレンスの意義や目的などあわせて本日の流れも紹介しました。 **開会の挨拶** **内閣府　政策統括官（共生社会政策担当）付参事官補佐　鈴木　敦　様** 　高校生 ICTConference2015 の意義及び内閣府の役割についてもあわせて紹介いただきました。 **第六部　　事業者による講演** 企業さんがあらかじめ自分達でテーマと役割を決めて短い時間でそれぞれ重要な内容をプレゼンしてくださいました。 **LINE 株式会社　政策企画室　高橋　誠　様** 　ルールを考える際、どのように考えればよいかの指針について講演してくださいました。 　まず、「悪口を言ってはいけない」という具体例を出し、なぜこのルールを作る必要があるのか、どういう状態だと守られていると言えるか、どうやったら維持できるか、ということについて、をお話くださいました。 　そして、インターネットの特徴（公開される、記録される、拡散する等）についても触れてくださり、インターネットの特徴を踏まえ、ルールを作ることが目的になると思考停止してしまうので、ルールを作る際には『最終的に関係者がどういう状態になればよいか』『ルールを作ることが目的ではなく自ら考え続ける』ということをお話くださいました。その上で、ルールを決めて実行するだけでなく、ルールを見直す方法も事前に考えておくなど、PDCA サイクルを考えよう、とお話くださいました。 **デジタルアーツ株式会社　経営企画部 経営企画課　工藤　陽介　様** 　デジタルアーツ社の提供する『スマホにひそむ危険 疑似体験アプリ』を使用して、大人の考えたルール＆マナーについて改めて考えてみるという内容で講演してくださいました。 具体的には、「ネットで知り合った人に会いに行ってはいけません」「メッセージを送る時は相手の気持ちを考えよう」「ネットに個人情報を載せてはいけません」「歩きスマホをしてはいけません」「電車やバスの中では通話をしてはいけません」と

いった既存のルールについて、一概にそうとは言えないのではないかという問題提起をし、第二部の議論のきっかけ作りをしていただきました。

各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も　現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など　いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。

参加校　学校紹介　および　グループ分け

参加生徒全員が前に来て学校ごとに簡単に参加者紹介を行いました。

学校ごとに自己紹介をしたので少し緊張感も和らげました。その後グループ分けして５つに分かれました。

第二部：熟議「大人のルール&マナー」

グループに分かれ大阪私学教育情報化研究会の教員等がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。高校生たちは一緒に入って下さった事業者の方にもいろいろと質問をしながら、メモや付箋紙を活用し、意見を出し合っていきます。歓声が上がるほど活発な意見交換が出されました。ネットへの依存の高さや現代社会の問題点も出しているグループもありました。そこからいよいよ今回のテーマの「大人のルール&マナー」ということでさらに付箋紙を使いながらまとめていきました。付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で意見を整理分類して、各グループでまとめて行きました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。

また企業の方もサポータとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。また書記はＯＢ、ＯＧが担当しました。事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。

（詳細は別紙「熟議録」をご参照ください）

第三部:グループ発表

・グループ発表（各グループ３分程度）

今回のポイントは　前半の事業者様のプレゼンを高校生がかなりうまく活用していたことです。スマホの明暗をうまくよみとり、つなげて発表していました。明と暗、おもいやり、コミュニケーションの大切さをうまくまとめてくれました。

講評　　一般社団法人情報教育研究所　代表理事　永坂 武城　様

永坂氏は、全体の印象として「経験を重ね学んでいると同時に、高校生がルールに何を求めているのかが伝わって来た」と述べた。熟議を通して各自が自分と向き合えた貴重な時間を過ごせたとした上で「自由、依存、リスク、効果、安心して使いたい等」自身がルールに何を求めているのか気づけたのではないかと語った。今後、学んで欲しいこととして「大人が必要と考えるルール」と「自分たちが不必要と思

	えるルール」のギャップに意識を向け「どうしてそのルールを大人が必要と考えているのか」それに共感できない自分には、何かが不足しているかも知れないと仮説を立てて、振り返って欲しいとして、高校生に『問題点の見つけ方』についてアドバイスをしていただけました。 最後に、羽衣学園高校　米田謙三先生より次回の予告を紹介しました。
参加校：	〔大阪府〕 羽衣学園高等学校、大阪市立東高等学校、大阪学院大学高等学校
日　　時：	2015 年 7 月 25 日（土）13:30-17:00
場　　所：	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行大阪支店） 大阪市中央区和泉町 2-2-2 アクセス　地下鉄谷町線・中央線「谷町 4 丁目駅」8 番出口より徒歩 8 分
参加人数：	熟議参加生徒　32 人 見学者　37 人（教員・教育関係者・その他） 合計：69 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【第１班】６人 羽衣学園高等学校　３年　女子 羽衣学園高等学校　３年　女子 大阪学院大学高等学校　３年　男子 大阪学院大学高等学校　１年　男子 大阪市立東高等学校　２年　男子 大阪市立東高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 聖母被昇天学院高等学校　教諭　岡本　弘之 〔書記〕 近畿日本鉄道株式会社　畠平　誠也 【第２班】６人 羽衣学園高等学校　３年　女子 羽衣学園高等学校　３年　女子 羽衣学園高等学校　２年　男子 大阪学院大学高等学校　３年　男子 大阪市立東高等学校　２年　男子 大阪市立東高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 大阪府立北摂つばさ高等学校　教諭　吉村　剛志 〔書記〕 ECC コンピュータ専門学校　笹山　貴弘

	【第３班】７人 羽衣学園高等学校　３年　女子 羽衣学園高等学校　３年　女子 羽衣学園高等学校　２年　女子 大阪市立東高等学校　３年　女子 大阪市立東高等学校　２年　男子 大阪市立東高等学校　１年　女子 大阪学院大学高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 LINE 株式会社　高橋　誠 〔ファシリテーター補助〕 香ヶ丘リベルテ高等学校　森本　哲哉 〔書記〕 大阪情報コンピュータ専門学校　日下部　拓人 【第４班】７人 大阪市立東高等学校　１年　男子 大阪市立東高等学校　１年　男子 大阪市立東高等学校　１年　男子 羽衣学園高等学校　３年　女子 羽衣学園高等学校　２年　女子 羽衣学園高等学校　２年　男子 大阪学院大学高等学校　１年　男子 〔ファシリテーター〕 大和大学　教育学部　松本　宗久 〔書記〕 大阪電気通信大学　覺前　友哉 【第５班】６人 羽衣学園高等学校　２年　女子 羽衣学園高等学校　１年　女子 大阪市立東高等学校　２年　女子 大阪市立東高等学校　２年　男子 大阪市立東高等学校　１年　男子 大阪学院大学高等学校　１年　男子 〔ファシリテーター〕 一般社団法人情報教育研究所　永坂 武城 〔書記〕 近畿大学　渡辺　豪

主担当

大阪私学情報教育化研究会	米田	司会、ファシリテーター、書記手配
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務、受付
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡　他	庶務、受付
各地協力団体、事業者等		挨拶、講演、現地調整、ファシリテーター、書記、記録（撮影）、　他
内田洋行	市村、佐藤	会場設営、機材準備等

10. 高校生 ICT Conference 2015 in 大阪　第二回

概要	高校生、教員、企業関係者など約 73 名の参加者を得て、**「大人が作った子どものルール&マナーを考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　羽衣学園高校　米田　謙三　先生** 　これからの進め方を紹介、ICT カンファレンスの意義や目的などあわせて本日の流れも紹介しました。 **開会の挨拶** **総務省　近畿総合通信局　電気通信事業課　課長　原 彰宏　様** 　高校生 ICT Conference2015 の意義及び総務省の情報モラル・リテラシー教育などの取り組みについてもあわせて紹介いただきました。 **第七部　　事業者による講演** **「“気づき”が見つけられる「８つの意識」」** **一般社団法人・情報教育研究所　代表理事　永坂 武城　様** 　ネットトラブルは他者とのコミュニケーションギャップによって生じるケースが少なくありません。コミュニケーションを取る相手と考え方が違えば、受け答えの差異、相手の考え方について納得感が生まれます。情報モラルを勉強したり、問題解決の方法を模索する時に８つの意識を活用すると関係性に気づけるようになります。 　【８つの要素】・・「何を」「誰が」「どのような目的で」「誰に」「いつ」「どのような効果を期待して行ったのか」「それらの根拠は何であるのか」「それによって発生するリスクの可能性はあるのか」 　例えば日頃、根拠に意識を持たない人は、行動にブレが生じやすい可能性は否定できません。「どうして、それを行う必要があるのか」意識もせずに行動をする人は、躓きを起こしやすいかも知れません。安心安全にネット利用をするには必要な要素であり、８つの要素を常に意識できるようになることで、トラブル発生の可能性は減少することでしょう。 　江戸時代の参勤交代を例に挙げた８つの意識をもとにした整理の仕方を聞いた高校生からは「歴史が嫌いなんですけど事例を聞いて、こうやって勉強すれば良いんだ！と分かりました」 　別の高校生からは「今日のようにルールだけではなくて、伝える時や文章を書く時に使いたい」の感想がありました。 **参加校　学校紹介　および　グループ分け** 　　参加生徒全員が舞台上にあがり学校ごとに簡単に参加者紹介を行いました。 　学校ごとに自己紹介をしたので少し緊張感も和らげました。その後グループ分け

	して５つに分かれました。 **第二部：熟議「大人が作った子どものルール&マナーを考える」** グループに分かれ大阪私学教育情報化研究会の教員等がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。高校生たちは付箋紙に考えていることを提示していき、活発な意見を出し合っていきました。ネットの問題については大人が知らな過ぎるといった問題点を提示しつつ、その大人に向けた発信方法を検討しているグループもありました。ルールとマナーを深く考え込み、分析していたグループもありました。そこからいよいよ今回のテーマの大人が作った子どものルール&マナーを考えるということで「高校生だから言える提言」をキーワードにさらに付箋紙などを使いながらまとめていきました。付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で意見を整理分類して、各グループでパソコンを使ってプレゼンテーションソフトにまとめていきました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。 また企業の方もサポータとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。また書記はＯＢ、ＯＧが担当しました。事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。 （詳細は別紙「熟議録」をご参照ください） **第三部:グループ発表** ・グループ発表（各グループ４分程度） 発表のまとめ後、各グループ４分程度の発表を行いました。 各グループ、模造紙のまとめとプレゼンテーションソフトをうまく活用しながら堂々とプレゼンしてもらいました。 その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、東京サミットに行く代表校の選定投票を行いました。 最後に、羽衣学園高校　米田謙三先生より以下全体講評をいただきました。 『7 月に「社会大人のルール&マナー」ということで、大人（世の中）のネット利用について「問題あり」と思うことをいろいろと出し合い、カテゴリーごとにまとめました。「投稿系」「違法」「詐欺」「友人間コミュニケーション」など。 本日は 2 回目ということで、きちんと議論の優先順番を決め、問題の原因、本質を議論していました。最初に講演いただいた内容をもとに「大人が作った子どものルール&マナーを考える」からルール分類したりして、ルール＆マナーの本質を見極めネット環境をよりよくしていくために自分たちが出来ること、やるべきことを議論していました。最後に自分たちの考えるルールを整理し、提言してくれました。これを機会にぜひ自分たちの学校に戻ってからも、「高校生自身の気づき」「年少の子どもに行動できる高校生」「次世代の保護者」としてしっかり行動してください。』

参加校：	〔大阪府〕 羽衣学園高校、大阪学院大学高等学校、大阪市立東高等学校 大阪府立東百舌鳥高等学校 〔奈良県〕 奈良県立奈良朱雀高等学校
日　　時：	2015 年 9 月 20 日（日）13:30-17:00
場　　所：	大阪府私学教育文化会館 大阪府大阪市都島区網島町 6-20
参加人数：	熟議参加生徒　38 人 見学者　35 人（教員・教育関係者・その他） 合計：73 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【第１班】７人 大阪市立東高等学校　２年　男子 大阪市立東高等学校　１年　男子 大阪学院大学高等学校　１年　男子 大阪学院大学高等学校　１年　男子 羽衣学園高等学校　１年　女子 羽衣学園高等学校　３年　女子 大阪府立東百舌鳥高等学校　３年　女子 〔ファシリテーター〕 関西大学中高　宮本 裕美子 〔書記〕 近畿大学　渡辺　豪 【第２班】７人 羽衣学園高等学校　１年　女子 羽衣学園高等学校　１年　女子 大阪学院大学高等学校　１年　男子 大阪市立東高等学校　２年　男子 羽衣学園高等学校　３年　女子 大阪市立東高等学校　２年　男子 大阪市立東高等学校　１年　男子 〔ファシリテーター〕 大阪青凌高等学校　教諭　米田 貴 〔書記〕 甲南大学　佐々木 裕太 【第３班】７人 大阪学院大学高等学校　２年　男子 大阪学院大学高等学校　１年　男子

	羽衣学園高等学校　２年　男子 羽衣学園高等学校　３年　女子 大阪市立東高等学校　２年　男子 大阪市立東高等学校　１年　女子 大阪市立東高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 大阪府立北摂つばさ高等学校　教諭　吉村 剛志 〔書記〕 神戸親和女子大学　原 英莉 【第４班】７人 大阪学院大学高等学校　１年　男子 羽衣学園高等学校　２年　女子 羽衣学園高等学校　２年　男子 大阪市立東高等学校　３年　男子 大阪市立東高等学校　２年　女子 大阪学院大学高等学校　３年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 大和大学　教育学部　松本　宗久 〔書記〕 ミライト・テクノロジーズ　中西 巧 【第５班】８人 大阪府立東百舌鳥高等学校　３年　女子 大阪市立東高等学校　１年　男子 大阪市立東高等学校　２年　男子 羽衣学園高等学校　２年　女子 大阪学院大学高等学校　３年　男子 大阪学院大学高等学校　１年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 目白大学　社会学部　金子 真志 〔書記〕 大阪情報コンピュータ専門学校　日下部 拓人

主担当

大阪私学情報教育化研究会	米田	司会、ファシリテーター、書記手配
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務、受付
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡、工藤	庶務、受付
各地協力団体、事業者等		挨拶、講演、現地調整、ファシリテーター、書記、記録（撮影）、　他

11. 高校生 ICT Conference 2015 in 奈良

概要	高校生、教員、企業関係者など 80 名の参加者を得て、**「大人が作った子どものルール&マナーを考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　奈良県立御所実業高等学校　安本　敦志　先生** これからの進め方を紹介、ICT カンファレンスの意義や目的などあわせて 本日の流れも紹介しました。 開会の挨拶 **内閣府 政策統括官（共生社会担当）付参事補佐 鈴木 敦 様** 高校生 ICTConference2015 の意義及び内閣府の役割についてもあわせて紹介いただきました。 **帝塚山大学　学長　岩井　洋　様** 会場校を代表して、帝塚山大学の岩井学長から高校生たちへ向けた歓迎の意および、本日の議論への期待についてお話しいただきました。 **第八部　　事業者による講演** 企業さんがあらかじめ自分達でテーマと役割を決めて短い時間でそれぞれ 重要な内容をプレゼンしてくださいました。 **『スマホ・ケータイでのトラブルを防ぐには～ルールやマナーを守って正しく使おう～』** **NTT ドコモＣＳ関西　総務部　共通業務支援センター　松本　直子　様** スマートフォンを利用することに寄る危険性に関して講演してくださいました。普段の何気ない行動により、一生自身につきまとう問題につながってしまう可能性を理解し、それらを防ぐ方法について考えていただくことがポイントです。 **『アカウントについて考える』** **株式会社サイバーエージェント　メディアサポート室　中村　広毅　様** アカウントの用語説明から始まり、企業、サービスがアカウントを用いて何を管理しているのか、アカウントの不正ログインの事例、アカウント情報を教えてしまうリスクに関して講演してくださいました。 各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も　現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など　いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。

	参加校　学校紹介　および　グループ分け 　まず、今回のテーマについてのイントロダクションとして、ルールとマナーについて、どのような視点で進めていくかを説明し、参加校紹介を行いました。その後グループ分けして７つのグループに分かれました。 **第二部：熟議「大人のルール&マナー」** 　グループに分かれ参加各校の教員や教員を目指す大学院生、帝塚山大学のＯＧほか協力関係団体・企業の方がファシリテーターとなり、高校生熟議を開始しました。高校生たちは付箋紙にルールとマナーについて、考えていることを提示していき、活発な意見を出し合っていきました。ネットの問題については大人が知らな過ぎるといった問題点を提示しつつ、その大人に向けた発信方法を検討しているグループもありました。ルールとマナーを深く考え込み、分析していたグループもありました。そこからいよいよ今回のテーマの大人が作った子どものルール&マナーを考えるということで「高校生だからいえる提言」をキーワードにさらに付箋紙などを使いながらまとめていきました。付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で意見を整理分類して、各グループでまとめて行きました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。 　書記は Conference のＯＢ、ＯＧや、教員を目指す大学生が担当しました。事前にまとめ方に関して打ち合わせを実施し、滞りなくまとめることができました。 **（詳細は別紙「熟議録」をご参照ください）** **第三部:グループ発表** ・グループ発表（各グループ３分程度） 　今回のポイントは　前半の事業者様の講演に対して、高校生がかなりうまく活用していたことです。スマホの明暗をうまく読み取り、つなげて発表していました。読むことができない利用規約をどのように考えるのか、SNS で発信する言葉に対してのおもいやり、コミュニケーションの大切さをうまくまとめてくれました。 その後、11 月 3 日に東京で開催されるサミットへの奈良からの代表者を選考し、発表しました。 **講評　　帝塚山大学　日置　慎治　様** 　はじめに、本日参加した高校生の皆さんの何事にも挑戦しようという前向きな姿勢がすばらしいこと、初めて会う他校の生徒と一緒に議論した貴重な経験、そしてこの経験が必ず将来のためになるであろうという点について話されました。 　次に各グループの発表について、それぞれの主張に対する講評があり、最後に、必ずしも正しい見本とはいえない大人がいる現状にもかかわらず、本日の高校生たちは年齢的にはまだ未成年だが、行動は十分大人に値するのではないかというコメントで締めくくられました。

	最後に、**奈良県くらし創造部　青少年・生涯学習課　末武　正之 様**より閉会のご挨拶をいただきました。
参加校：	〔奈良県〕 関西中央高等学校、奈良県立奈良高等学校、奈良県立高田高等学校、奈良県立御所実業高等学校、奈良県立香芝高等学校、奈良県立奈良朱雀高等学校、奈良県立青翔高等学校、奈良県立奈良情報商業高等学校、奈良県立大和広陵高校 〔大阪府〕 羽衣学園高等学校
日　　時：	2015 年 7 月 26 日（日）10:00-17:00
場　　所：	帝塚山大学 東生駒キャンパス 奈良市帝塚山 7-1-1
参加人数：	熟議参加生徒　41 人 見学者　38 人（教員・教育関係者・その他） 合計：79 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【第１班】６人 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子 奈良県立御所実業高等学校　３年　男子 奈良県立高田高等学校　１年　女子 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子 奈良県立奈良情報商業高等学校　３年　男子 奈良県立奈良高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 奈良県立香芝高等学校　川下　優一 〔書記〕 大阪工業大学　増井　康昌 【第２班】６人 奈良県立奈良朱雀高等学校　３年　男子 奈良県立御所実業高等学校　３年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　３年　男子 奈良県立高田高等学校　１年　男子 奈良県立奈良情報商業高等学校　２年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　３年　男子 〔ファシリテーター〕 奈良県立奈良朱雀高等学校　林　孝宣 〔ファシリテーター補助〕 目白大学　金子 真志 〔書記〕 奈良学園大学　岩本　香澄

	【第３班】６人 奈良県立高田高等学校　１年　男子 奈良県立御所実業高等学校　３年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子 奈良県立奈良情報商業高等学校　２年　女子 奈良県立奈良朱雀高等学校　１年　女子 奈良県立大和広陵高校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 なら情報セキュリティ総合研究所（ナリス）　溝渕　健作 〔ファシリテーター補助〕 なら情報セキュリティ総合研究所（ナリス）　井口　敬之 〔書記〕 鴻池病院　長谷川　愛莉 【第４班】５人 奈良県立青翔高等学校　３年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子 奈良県立大和広陵高校　２年　男子 関西中央高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 帝塚山大学（卒）　村上 友香 〔書記〕 奈良県立御所実業高等学校（卒）　森田　拓也 【第５班】６人 関西中央高等学校　２年　男子 奈良県立奈良情報商業高等学校　２年　男子 奈良県立大和広陵高校　２年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　１年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　１年　男子 羽衣学園高等学校　３年　女子 〔ファシリテーター〕 関西中央高等学校　佐藤　竜介 〔書記〕 近畿日本鉄道株式会社　畠平　誠也 【第６班】６人 奈良県立奈良朱雀高等学校　３年　女子 関西中央高等学校　２年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子

	奈良県立大和広陵高校　２年　男子 奈良県立奈良情報商業高等学校　２年　男子 羽衣学園高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 奈良県立十津川高等学校　下村　陽信 〔ファシリテーター補助〕 奈良地域の学び推進機構　石川　千明 〔書記〕 大阪情報コンピュータ専門学校　日下部　拓人 【第７班】６人 奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子 奈良県立奈良朱雀高等学校　３年　男子 奈良県立奈良情報商業高等学校　３年　男子 奈良県立大和広陵高校　１年　女子 奈良県立香芝高等学校　３年　女子 羽衣学園高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 奈良県立高田高等学校　鹿島　慎一 〔ファシリテーター補助〕 畿央大学大学院　浅野 晃一 〔書記〕 近畿日本鉄道株式会社　吉田　航也

主担当

奈良県情報教育研究会 (奈良県立御所実業高等学校)	安本	司会、ファシリテーター、書記手配
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務、受付
草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	吉岡	庶務、受付
各地協力団体、事業者等		挨拶、講演、現地調整、ファシリテーター、書記、記録（撮影）、　他
帝塚山大学	日置	会場設営、機材準備等

12. 高校生 ICT Conference 2015 in 福岡

概要	高校生、教員、企業関係者など約 70 名の参加者を得て、**「大人が作った子どものルール&マナーを考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　高校生 ICT Conference 実行委員会　吉岡 良平　様** 高校生 ICT カンファレンスの意義や目的とあわせて本日の流れも紹介しました。 **開会の挨拶** **文部科学省スポーツ・青少年局青少年課　課長　泉 潤一　様** 高校生 ICT カンファレンスの意義及び文部科学省の役割についてもあわせて紹介いただきました。 **総務省　九州総合通信局　情報通信部長　小野寺 昭彦　様** 総務省の業務の内容紹介とあわせて、e-ネットキャラバンをはじめ、安心・安全な青少年インターネット利用環境の整備の取り組み及び本カンファレンスに期待する点について、お話をいただきました。 **第九部　事業者による講演** **グリー株式会社 安心安全チーフマネージャー　小木曽 健　様** ルールを作るうえで「必要な知識」や「誤った情報」を排除するテクニックを講演。 「それはスマホ特有の問題なのか？」「子どもだけに起きている問題なのか？」 「思い込みだけで是非を判断していないか？」など、実際の事例を交えながら、 ルールの実効性を妨げる要因や誤解を事例で確認。 ルールが必要なのは「弊害」が起きているからであって、「弊害」をしっかり見極めれば、良いルールが出来上がるのに、世の中のルールの多くは弊害を見誤り、改善に結びつかずに失敗している。「そもそも何故ルールが必要か」の見極めが重要。 生徒たちのプレゼンでは、この「そもそも」意識が随所に見られ、大変嬉しく思いました。 **LINE 株式会社　政策企画室　高橋　誠　様** ルールを考える際、どのように考えればよいかの指針について講演してくださいました。 まず、「悪口を言ってはいけない」という具体例を出し、なぜこのルールを作る必要があるのか、どういう状態だと守られていると言えるか、どうやったら維持できるか、ということについて、をお話くださいました。 そして、インターネットの特徴（公開される、記録される、拡散する等）につい

	ても触れてくださり、インターネットの特徴を踏まえ、ルールを作ることが目的になると思考停止してしまうので、ルールを作る際には『最終的に関係者がどういう状態になればよいか』『ルールを作ることが目的ではなく自ら考え続ける』ということをお話くださいました。その上で、ルールを決めて実行するだけでなく、ルールを見直す方法も事前に考えておくなど、PDCA サイクルを考えよう、とお話くださいました。 **第二部：熟議「大人が作った子どものルール&マナーを考える」** 　まず、今回のテーマについてのイントロダクションとして、ネット・スマホの利用について～今自分たちの身の回りで起きている問題、困っていること～と題し、 【なぜルール＆マナーが必要なのかを考えよう】 【大人に注意されること、よく言われることを思い出してみよう】 【大人は何が目的・心配で注意するのか考えてみよう】 の 3 点について熟議を開始しました。 高校生たちはメモや付箋紙を活用し、沢山の意見を出し合っていきます。 　そこからいよいよ今回のテーマの「言いたい！イマドキのネットのルール＆マナー！！～高校生のボクたちだから～」について、さらにパソコンやタブレットなどを使いながらまとめていきました。 大人も夢中になっている、自分でルールを考えられないのが問題、自分たちは使っているうちに自然にルールが出来上がってる、共通のルールは無理、自分たちにあったルールをつくればいいなど、沢山の意見が出ました。 また企業の方もサポータとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。ファシリテーターは福岡県立大学の学生、書記は子どもねっと会議所の方が担当し、事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。 **第三部:グループ発表** 　発表のまとめ後、別会場で同時開催されている「青少年のネット利用を考えるフォーラム」に移動し、各グループ 3 分程度の発表を行いました。 「ネットは現実と同一と捉えて対処する」 「画一的なルールは非現実的、状態に応じて各自でルールを設ける」 「大人でも、誰もが SNS に書いた内容を持って町中を歩けるとは限らない、つまり大人も不適切な内容を書いているのだ」 「学校が社会に役立つ人間を育てる場であるのなら、IT 機器を規制するのではなく、活用出来る人材を育てるべき、一緒によいネット社会を作っていきましょう」 など、大勢の大人の前でグループごとに堂々とプレゼンしてもらいました。 　その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、東京サミットに行く代表校の選定投票を行いました。 選定の間に福岡県青少年課の三島係長より子どもたちをネットトラブルから守る

	ための取組みについてご紹介がありました。 その後、代表校の発表をし、挨拶してもらいました。 **全体講評　子どもねっと会議所　代表　井島 信枝　様** 以下コメントをいただきました。 「事業者の方の講話や熟議を通して、彼らが青少年のネット問題の当事者意識が高まり、我々大人にも新たなヒントを提示してくれた事が大きな成果だと思う。 　インターネット社会はまだまだ未成熟な文化で、これからより人々の生活を豊かに、便利に、楽しくしていくものになるか、悪と欺瞞に満ちた汚れた社会になってしまうかはネットを使う一人ひとりの意識にかかっている。 　今日の高校生の声を聞いて、彼らは今後より年少の子どもにも手本となる、良識あるネットユーザーに成長してくれるであろうと確信し心強く感じた。 　我々大人は「子どもの方が先んじていて口出しできない」と尻込みせず、ネットの中で不適切な場面に遭遇した際きちんと判断できる子どもの「心」を育てること、子どもが悩みや問題を抱えた時にネットの中に逃げ込まなくて済むよう、本気で力になりたいと思っている大人がそばにいるという姿を見せていこうではないかと会場に呼びかけた。」
参加校：	福岡県立博多青松高校、那珂川町立福岡女子商業高等学校、福岡県立福岡中央高校学校法人東福岡学園東福岡高等学校、学校法人博多学園博多高等学校、学校法人沖学園沖学園高等学校、福岡県立福岡高等学校、福岡県立城南高等学校、福岡県立修猷館高等学校、福岡県立香椎高等学校
日　　時：	2015 年 9 月 12 日（土）12:30-17:00
場　　所：	パピヨン２４会議室及びガスホール 福岡県福岡市博多区千代１丁目１７−１
参加人数：	熟議参加生徒　33 見学者・関係者　38 人（教員・教育関係者・その他） 合計：71 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【グループ１】パンプキンとゆかいな仲間たち　6 名 学校法人東福岡学園　東福岡高等学校　３年　男子 福岡県立城南高等学校　２年　女子 学校法人沖学園　沖学園高等学校　２年　男子 福岡県立福岡中央高校　２年　男子 福岡県立博多青松高校　３年　男子 那珂川町立福岡女子商業高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学　尾方　恵梨子 〔書記〕 子どもねっと会議所　原　加代子

	【グループ２】　６名 学校法人東福岡学園　東福岡高等学校　３年　男子 那珂川町立福岡女子商業高等学校　２年　女子 福岡県立香椎高等学校　２年　女子 学校法人博多学園　博多高等学校　２年　女子 福岡県立博多青松高校　１年　男子 学校法人沖学園　沖学園高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学　中尾　くる美 〔書記〕 子どもねっと会議所　橋本 晴子 【グループ３】　５名 福岡県立福岡高等学校　３年　男子 福岡県立修猷館高等学校　１年　女子 福岡県立博多高等学校　２年　女子 福岡県立博多青松高校　１年　男子 学校法人東福岡学園　東福岡高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学　松本　美和子 〔書記〕 子どもねっと会議所　田染 美穂子 【グループ４】　６名 福岡県立博多青松高校　３年　女子 福岡県立香椎高等学校　１年　女子 福岡県立博多高等学校　２年　男子 福岡県立修猷館高等学校　１年　女子 福岡県立福岡高等学校　２年　男子 福岡県立福岡中央高校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学　丸山　佳子 〔書記〕 子どもねっと会議所　二宮 佳代子 【グループ５】　５名 福岡県立香椎高等学校　２年　女子 学校法人博多学園　博多高等学校　１年　男子 福岡県立福岡中央高校　２年　女子 福岡県立修猷館高等学校　１年　男子

	福岡県立福岡高等学校　３年　男子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学　吉田　栞 〔書記〕 子どもねっと会議所　小島 公子 【グループ６】～チーム藤井～　５名 福岡県立香椎高等学校　２年　男子 福岡県立修猷館高等学校　２年　男子 福岡県立城南高等学校　２年　女子 学校法人博多学園　博多高等学校　１年　男子 福岡県立福岡高等学校　２年　男子 〔ファシリテーター〕 福岡県立大学　藤井　春奈 〔書記〕 子どもねっと会議所　幾尾　恭子

主担当

福岡県　新社会推進部青少年課	三島、白水他	全体調整、ファシリテーター・書記手配，庶務、受付
安心ネットづくり促進協議会	吉村、白戸他	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡	司会、庶務、受付
子どもねっと会議所	井島　他	記録
福岡県立大学	大学生	ファシリテーター
各地力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、資料提供　他

13. 高校生 ICT Conference 2015 in 大分

概要	高校生、教員、企業関係者など 67 名の参加者を得て、**「大人が作った子どものルール&マナーを考える」**をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。 **【リアル熟議】** **主旨説明　ハイパーネットワーク社会研究所　渡辺 律子 様** 高校生 ICT カンファレンスの意義や目的などあわせて本日の流れも紹介しました。 開会の挨拶 **文部科学省スポーツ・青少年局参事官（青少年健全育成担当）付青少年有害環境対策専門官　八木澤 寛　様** 高校生の意義及び文部科学省の役割についてもあわせて紹介いただき、「高校野球のように白熱した議論を通じて、この時間を楽しんでほしい」とコメントをいただきました。 **総務省　九州総合通信局　情報通信部 電気通信事業課長　國井 和裕 様** 総務省のネット利用状況調査、情報モラル・リテラシー教育などの取り組みや大分県における条例に基づいた取組についてお話しいただきました。 **第十部　　事業者による講演** 企業から、以下の様な内容で発表いただきました。 **『インターネットを過去と未来から考える』** **ソフトバンク株式会社　渉外本部　佐治 健史 様** これまでのインターネットの発展を振り返りながら、同時にトラブルもさまざまに変化し、国や民間でその対策と啓発が行われてきました。 次代を担う高校生の皆さんが、これまでの人々の経験に学び、インターネットをよりよく活用していくことをお話しいただきました。 また、クラウドにつながる進化の象徴として、感情認識パーソナルロボット「Pepper」のお話しもありました。 **参加校　学校紹介　および　グループ分け** まず、今回のテーマについてのイントロダクションとして、ルールとマナーについて、どのような視点で進めていくかを説明し、参加校紹介を行いました。その後グループ分けして 6 つのグループに分かれ、最初にネット利用「今自分たちの身の周りで起きている問題」について話し合いました。

	第二部：熟議「大人が作った子どものルール&マナーを考える」 　ハイパーネットワーク社会研究所、大分市教育センター、教育委員会、大分大学大学院生の方等がファシリテーターとなり、高校生熟議を開始しました。 　以下の流れで 30 分ずつ時間を区切り、熟議を進めました。 　・大人のルール・マナー 　・大人に注意されることやよく言われること 　・自分たちで考えるルール・マナー 　高校生たちは付箋紙に考えていることを提示していき、活発な意見を出し合っていきました。ネットの問題については大人が知らな過ぎるといった問題点を提示しつつ、その大人に向けた発信方法を検討しているグループもありました。ルールとマナーを深く考え込み、分析していたグループもありました。そこからいよいよ今回のテーマの大人が作った子どものルール&マナーを考えるということで「高校生だからいえる提言」をキーワードにさらに付箋紙などを使いながらまとめていきました。付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で意見を整理分類して、各グループでパソコンを使ってパワーポイントにまとめて行きました。細かなテーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。 　書記は大分大学や芸術文化短期大学の大学生が担当し、滞りなくまとめることができました。 **（詳細は別紙「熟議録」をご参照ください）** **第三部:グループ発表** ・グループ発表（各グループ 3 分程度） 　今回のポイントは　前半の事業者様の講演に対して、高校生がかなりうまく活用していたことです。スマホの明暗をうまく読み取り、つなげて発表していました。読むことができない利用規約をどのように考えるのか、SNS で発信する言葉に対してのおもいやり、コミュニケーションの大切さをうまくまとめてくれました。 全体司会　ハイパーネットワーク社会研究所　原田 美織 様より逐次コメントをいただきました。 その後、11 月 3 日に東京で開催されるサミットへの大分からの代表者を選考し、発表しました。 **講評　　大分県教育委員会　教育次長　落合　弘　様** 　各グループの発表を振り返り、１つ１つポイント・キーワードをあげて丁寧にコメントをいただきました。 参加各校の皆さん本日の熟議の結果を学校に持ち帰ってさらに深め、代表になった学校は東京サミットにおいても更に深める議論をしていただきたいというコメントで締めくくられました。

参加校：	大分県立大分雄城台高等学校、大分県立大分工業高等学校、大分県立宇佐産業科学高等学校、大分県立由布高等学校、大分県立大分南高等学校、大分県立大分鶴崎高等学校、大分県立大分商業高等学校、大分県立中津東高等学校
日　　時：	2015 年 8 月 29 日（土）10:00-16:00
場　　所：	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ 大分市東春日町１番１号 エヌエス大分ビル
参加人数：	熟議参加生徒　30 人 見学者・関係者　37 人（教員・教育関係者・その他） 合計：67 人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【第１班】”ハーレムＹＹ”　５人 大分県立由布高等学校　３年　女子 大分県立由布高等学校　３年　男子 大分県立大分商業高等学校　１年　女子 大分県立大分南高等学校　２年　女子 大分県立大分工業高等学校　３年　女子 〔ファシリテーター〕 大分市教育センター　柴尾 則子 〔書記〕 大分大学教育福祉科学部３年　原 歩実 【第２班】”おんせんぴーぽー♨”５人 大分県立大分工業高等学校　３年　男子 大分県立由布高等学校　３年　女子 大分雄城台高等学校　２年　女子 大分県立大分商業高等学校　１年　女子 大分県立大分南高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 中津市教育委員会　学校教育課　黒川 智子 〔書記〕 大分市情報学習センター　荒巻 久美子 【第３班】”しょうが焼き定食（大盛り）¥500”　５人 大分県立宇佐産業科学高等学校　２年　女子 大分県立由布高等学校　３年　女子 大分県立大分工業高等学校　３年　男子 大分県立中津東高等学校　２年　女子 大分雄城台高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 ハイパーネットワーク社会研究所　芳崎 哲也 〔書記〕

	日本文理大学　梶原 百香 【第４班】”UNO”　５人 大分雄城台高等学校　２年　女子 大分県立中津東高等学校　２年　男子 大分県立宇佐産業科学高等学校　２年　女子 大分県立大分鶴崎高等学校　３年　女子 大分雄城台高等学校　２年　女子 〔ファシリテーター〕 ハイパーネットワーク社会研究所　七條 麻衣子 〔書記〕 大分大学　大津 春輝 【第５班】”おんせん”　５人 大分県立中津東高等学校　２年　男子 大分県立中津東高等学校　１年　男子 大分県立大分鶴崎高等学校　３年　女子 大分県立宇佐産業科学高等学校　３年　男子 大分県立由布高等学校　３年　男子 〔ファシリテーター〕 大分大学教育福祉科学部大学院生　首藤 麻衣 【第６班】”劇ダンシング☺スマイル″　５人 大分県立中津東高等学校　２年　男子 大分県立中津東高等学校　１年　男子 大分県立大分鶴崎高等学校　３年　女子 大分県立宇佐産業科学高等学校　３年　男子 大分県立由布高等学校　３年　男子 〔ファシリテーター〕 ハイパーネットワーク社会研究所　渡辺 律子 〔書記〕 大分県立芸術文化短期大学　伊藤 成葉

主担当

ハイパーネットワーク社会研究所	渡辺　他	司会、ファシリテーター、書記手配，庶務、受付
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	吉岡	庶務、受付
各地協力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、ファシリテーター、書記、記録（撮影）、　他

14. 高校生 ICT Conference 2015　サミット

概要	高校生、教員、企業関係者など約 110 名の参加者を得て、**「言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！～　高校生のボクたちだから　～」**をテーマに、高校生 ICT Conference 開催各地域からのそれぞれ代表者 1 名と、今年度は沖縄、福井からの招待参加を含め、合計 11 名の高校生が、各開催地の結果を持ち寄り、最終提言をまとめるための熟議を行いました。 **司会進行・主旨説明** **羽衣学園高等学校　米田　謙三　先生** まず全体の進行役の羽衣学園高等学校 米田 謙三 先生より本日の大まかな流れとこれまでの主旨を説明していただきました。 **開会の挨拶** **経済産業省 商務情報政策局 情報経済課長 佐野究一郎様** 「これからは、IoT でモノもインターネットに繋がり、世の中のものがデジタル化され、例えば自動運転車が登場するなど、人工知能で制御されていく時代になります。 一方でいろいろ負の面も出てきています。 プライバシーの問題や、システムがハッキングされて情報が漏れたりシステムが誤動作したりする可能性もある中、利用者のモラルも大事だと思っています。 IT が進む中で利用者として自らモラルを作っていって、多くの人にどのように守ってもらうかということを議論していただき、提言していただければと思います。」 **総務省　総合通信基盤局　電気通信事業部　データ通信課長　吉田　正彦　様** **一般財団法人　草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会　代表理事　安田浩　様** 開会の挨拶では、本日の高校生の議論、そして最終報告会での提言に対しての期待のお言葉をいただきました。 **第一部：グループ熟議　「高校生のボクたちだから言いたい！イマドキのネットのルール＆マナーについて考えよう」** **【各開催地域代表生徒の自己紹介・各開催地域の熟議の報告】** まず、アイスブレイクとして参加メンバーの自己紹介を兼ねた各地域の熟議の報告を以下の順番にてそれぞれ 4 分間で行ないました。プレゼンテーションソフトを駆使して、個性豊かな報告がおこなわれました。 ①北海道札幌東豊高等学校　１年　女子 ②栃木県立宇都宮北高等学校　２年　女子 ③鎌倉女学院高等学校　１年　女子

④石川県立七尾高等学校　２年　女子
⑤長野県明科高等学校　３年　男子
⑥羽衣学園高等学校　３年　女子
⑦奈良県立奈良朱雀高等学校　２年　男子
⑧福岡県立香椎高等学校　２年　男子
⑨大分県立大分雄城台高等学校　２年　女子
⑩福井県立科学技術高等学校　３年　男子（招待参加）
⑪沖縄県立那覇国際高等学校　２年　女子（招待参加）

高校生たちも最初は緊張していましたが、だんだんと和やかになってきました。

休憩

【グループ熟議・提言資料作成】

今回のグループ熟議は3つのセッションに分けておこなわれました。

第1のセッションでは11名の高校生が3つのグループに分かれ、「大人のルール＆マナー」について考えていきました。

続く第2のセッションでは2つのグループになり、「大人が作った子どものルール＆マナーを考える」をテーマに意見を出し合っていきました。

最後のセッションは11名がひとつになって、最終発表「言いたい！イマドキのネットのルール＆マナー！！～高校生のボクたちだから～」に向けた議論を深めていきました。

そして、これまでの議論を振り返りながら、お互いに役割分担を決めてその内容をプレゼンテーションソフトにまとめ、発表方法も自分たちで考えて決めていきました。

※第一部の「グループ熟議」の詳細は「高校生ICT Conference2015 サミット 熟議録」をご参照ください。

第二部：提言発表

【(1)提言発表】

制限時間のあるなか、11名で上手に発表してくれました。

≪発表内容≫

タイトルは「高校生の私たちだから出来るサイクル」です。

まず、これまでの大人が作ったルール＆マナーは、本質が理解できず、皆が納得できないものになっていることが挙げられました。

そこで、ルールやマナーを実体験によって理解するために、詐欺サイト体験アプリや動画、カリキュラムへの取り入れなどを通して、身をもってルールの存在意義

	を知り、納得するための取り組みが必要であると訴えていました。 　そんな、体験・意識・納得・発信からなるサイクルこそが、高校生の私たちにできることだと訴え、発表を締めくくりました。 **【(2)講評】** **　株式会社 KDDI 研究所　研究主査　齋藤　長行　様** 　情報モラルに対する考えも交えながら、「高校生の立場から発信して主体的な立場からアクションを起こして、体験、意識、納得、発信のサイクルを作ろうとするのが伝わってきた。 みなさんがコミットメント（約束）できるような場を作ることが重要です。 高校生 ICT カンファレンスと言いながら、大人の勉強にもなったと思います。」と、本日の熟議でのやり取りや発表に関して丁寧な講評、コメントをいただきました。 **【(3)集合写真撮影】** 　最後に全体で集合写真を撮影しました。 　今回の参加メンバーから、12 月 9 日の内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」、総務省、文部科学省、経済産業省での最終報告会に参加する代表 2 名を選出して、高校生 ICT Conference2015 サミットを終了しました。 　代表校は以下の通りとなりました。 　・羽衣学園高等学校　３年　女子 　・福岡県立香椎高等学校　２年　男子
参加校：	［北海道］　北海道札幌東豊高等学校 ［東京］　栃木県立宇都宮北高等学校 ［神奈川］　鎌倉女学院高等学校 ［石川］　石川県立七尾高等学校 ［長野］　長野県明科高等学校 ［大阪］　羽衣学園高等学校 ［奈良］　奈良県立奈良朱雀高等学校 ［福岡］　福岡県立香椎高等学校 ［大分］　大分県立大分雄城台高等学校 ［沖縄］　沖縄県立那覇国際高等学校（招待参加） ［福井］　福井県立科学技術高等学校（招待参加）
日　　時：	2015 年 11 月 3 日（火・祝）13:15-17:00
場　　所：	東京ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行） 東京都中央区新川 2-4-7
参加人数：	熟議参加生徒　11 人 見学者　98 人（教員・教育関係者・その他） 合計：109 人

主担当

大阪私学情報教育化研究会	米田	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	清水、野沢他	庶務
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	吉岡、工藤	庶務
各地協力団体、事業者等		挨拶、ファシリテーター、書記、講評　他
内田洋行	佐藤、眞鍋	会場設営、機材準備等

15. 高校生 ICT Conference 2015　最終報告会

日　　時：	2015 年 12 月 9 日（水）10:00-17:30
10:00-12:00 13:30-14:30 15:00-16:00 16:30-17:30	内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」発表・質疑 総務省にて意見交換 文部科学省にて意見交換 経済産業省にて意見交換
場　　所：	［内閣府 中央合同庁舎第 4 号館 ］ 〒100 -8970 東京都千代田区霞が関 3-1-1 ［総務省 総合通信基盤局 中央合同庁舎第 2 号館 ］ 〒100 -8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 ［文部科学省 生涯学習政策局 ］ 〒100 -0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 ［経済産業省 商務情報政策局　情報経済課 ］ 〒100 -0013 東京都千代田区霞が関 1-3-1
出席者：	［最終報告者 ］2 名 羽衣学園高等学校 3 年 女子 福岡県立香椎高等学校 2 年 男子 ［引率 ］2 名 羽衣学園高等学校　教諭 米田 謙三 福岡県立香椎高等学校　教諭 伊原 豊 ［随行 ］5 名 安心ネットづくり促進協議会　事務局長 吉村 浩一郎 安心ネットづくり促進協議会　白戸 和美 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構　清水 将人 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構　野沢 健太郎 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会　工藤 美貴

高校生 ICT Conference 2015　最終報告会　発表内容

全国 9 ヶ所でワークショップ形式の議論を実施し、北海道・長野・石川・神奈川・東京・大阪・奈良・福岡・大分からそれぞれ代表者 1 名を選出。福井・沖縄からの招待参加を含め、合計 11 名による高校生 ICT Conference2015 サミットを経て、最終報告会にサミット参加の高校生から代表者 2 名が、内閣府「第 29 回 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」、総務省、文部科学省、経済産業省において、高校生 ICT Conference2015 で得られた成果を提言として発表しました。

最終報告の内容は主に以下の通り。

【高校生による提言】
『言いたい！イマドキのネットのルール＆マナー！！　～高校生のボクたちだから～』
「高校生だからできる好循環サイクル」

１．大人が作ったルールに対する高校生の意見
・ネット・スマホを使っている人にとって、禁止するルールが本当にいいことか
・いま存在しているルールの意義を、当事者が理解しているか
・いま作られているルールがネット社会で起きている問題の根本部分に直結しているか
・大人がつくったルールにもかかわらず、大人たちが守ることができていない

（1）いま存在しているルール（２例）と問題点
（a）中学生以下スマホ保持禁止
⇒SNS などの使用により問題に巻き込まれないため。

（b）夜 9 時以降使用禁止
⇒依存問題への対処法として。

しかし、中学生以下であっても音楽プレイヤーとして使用しており、禁止は守られていない。また、夜 9 時までは使用してよいという解釈により、依存問題は解決していない。
ルールがあるにもかかわらず、逆効果になっている。ルール自体が問題の根本に結びついておらず、課せられている側が意義を理解できていないため逆効果。学ぶ機会を奪い、メリットも無くしてしまう。

（2）ルールを守ることのメリット
ルールを守れば、スマホやネットはとても便利なものである。例として、目的地までの道順を調べたり、クラスの連絡網を回したりするなど活用されている。ポイントは、ルールの具体化と意識改革である。

２．高校生が考えた対策「意識改革サイクル」
高校生の私たちが考えた対策は、「意識改革サイクル」というもの。このサイクルは、「体験」「意識納得」「発信」の 3 つから成り立つ。

●「体験」・・・詐欺サイト体験アプリや、学校教育としてのモラル授業を徹底していく。

さらに新しい制度として、スマホを持つ際に「受講証」や「免許証」を持つ。この免許証等を持つことによって、中高生がスマホ・ネットのトラブルに巻き込まれないことや、モラルの徹底につながっていくと考える。

●「意識納得」・・・先の「体験」において、高校生が危険な体験をすることで、リアルな恐怖感や被害体験を体感することができる。それによって、高校生自身の本格的な学習意欲が出てくるのではないかと考える。危機意識やルールの意義意識の向上が考えられ、最終的には高校生がいま存在しているスマホ・ネットのルールに納得すると共に、これからの新しいルールが生まれる。

●「発信」・・・高校生が一番、力を存分に発揮できるパートである。主体的な行動により、スマホ保持者自身が責任感を持って使用することができる。
現在、日本では高校生のスマホ保持率が 80%を超えており、また SNS などによる広範囲なつながりもある。このようなスマホのメリットは、高校生だからこそ最大限活かすことができる。

高校生が直接発信するということをポイントにして、以下に 3 つの具体例を挙げる。

（1）　啓発動画
高校生ならではのリアルなシナリオを作り、見ている人に共感を得てもらえるような、高校生なりの面白い動画を作って、皆にわかりやすいシンプルなものを作りたい。SNS などを利用して広範囲に啓発が可能。

（2）　大人と子供の学習会
ICT カンファレンスに参加して、このような場の大切さを実感した。これを発展させ、大人と子供が同じ立場で話し合うことにより、お互いの考えを理解できるのではないかと考える。

（3）　出前授業
高校生にとっては復習になり、小中学生にとっては新たな体験になる。これを地域行事として発展させ、講習会や講演会を行い、地域全体がモラルを徹底できる。

●「意識改革サイクル」の特長
　「体験」「意識納得」「発信」と言うサイクルの特長は、SNS などスマホのメリットを活かして広範囲にいきわたらせることができ、発信がまた新たな誰かの体験となることで、継続的に行えるということである。

また、「意識納得」から「発信」の間にルールを具体化できる。実際にルールを課せられるだけではなく、高校生自身がルールに対して意識納得をすることで、ルールがどう変わっていくべきかということを考えるきっかけにもなる。

３．高校生が思う、大切なこと

高校生の私たち自身が考える大切なことは、次の 3 点である。

（1）いろいろな立場の人が共に取り組む
現在のスマホ・ネットのルールは、大人が作り、子供に守るように言っているものである。大人と子供が対等の立場に立ち、守ることができるルールやマナーを新しく見直していかなくてはいけない。

（2）具体的な対処法を実行する
今回の ICT カンファレンス等で話し合われた内容を基に、様々な対処法ができてくると思うが、それを作るだけではなく実際に日本全国で実行を徹底していくことが、意識の向上につながる。

（3）ネット世界とリアルの表裏一体性を理解する
ネット・スマホのルールを作っていく中で最後に大切になってくるのは、大人と子供のリアルなコミュニケーションである。ネット・スマホについてどうしていくべきか、子供と大人が一緒に考えていくことが大切である。

4．まとめ
スマホには様々なリスクがある反面、メリットもたくさんある。これを生かし、リスクを無くしていくことが大切である。その際には、ルールだけでなく保持者のモラルも必ず必要となってくる。ルールを作る大人と、保持者である中高校生が共に協力してメリットを活かしていくことが、より良いスマホの利用につながる。より良い社会は目の前に、スマホと共に。

〔最終報告に関する質疑〕

（内閣府構成員：以下構成員）たいへんすばらしい発表ありがとうございました。まさにこれを言いたくて来たのだが、高校生の親の立場として、子供を信じる立場として、大変良いと思った。頭ごなしにフィルタリングで使わせないというのではなく、今日発表があったように、使わせて教育する、育てるということに力点を置いたらどうかということを今日言いたかった。使って、悪いものは悪いということを理解させながら、子供を信用してやるというようなことで、非常にいい発表だったと思う。

（構成員）具体的に高校生が直接発信するということで、啓発動画、大人と子供の学習会、出前授業という提案がある。現在、具体的に何か取り組んでいる高校生はいるか。具体例で効果があった、自分たちも取り組んでいることが小中学生に伝わってよかった、といった事例はあるか。

（生徒）2 人とも経験したことがある。学校で何度か出前授業を行っており、中学校３校に訪れ、講演という形でやらせていただいた。中学生はあまり興味を持たないのではと思っていたが、きちんと前を向いて聞いてくれた。高校生が講演を行うことが新鮮で、聞こうと思ってくれたのかもしれない。また、地元の小中高校生にワークショップ形式で教えるという形で行った際も、教育委員会の方にも来ていただき、大人と子供が一緒に参加した。私たちは教える側であったが、小中高校生や大人の意見も聞くことができるということで自分たち自身も学ぶことができる場となり、こうしたことがとても大切だと思った。行っていない地域もあるので、全国に広げていくべきだと思い、啓発活動として挙げさせていただいた。

（構成員）実体験に基づいて説得力ある提案をしていただいたものと思う。このテーマについては、高校生のほうがよりよくスマホなどネットワークについて理解していることが相対的にあるので、世代交流の形でのこういう学び合いが高校生から提案されたことは、大変心強く感じた。

（生徒）啓発動画は、11 月のサミットで他県から参加した生徒から、すでに自分たちで動画を作成して学校で流しているという実例が挙がり、見せてもらった。すでに学校で「SNS には気をつけよう」といった講演会等が行われているが、そこで流れている動画というのは大人が作ったもので、子供からするとそんな状況は見たことがないとか、そういった例はないのではないか、と思うものだった。高校生自身が動画を作ることによって、同年代ということもあり親近感が湧き、同じ高校生にこうした状況が起きるのならば、自分にもあるかもしれないという危機感が強まるのではないかと考えられたので、今回挙げさせていただいた。

（構成員）提言を聞くとあらゆることについて問題が解決するかのように思えるが、恐らくそうではない。つまり、詐欺のようなものについては効果があるであろうし、長時間利用やネット依存の問題については高校生がしっかり準備をし、啓発することで効果があると思われる。これらももちろん大事だが、我々が悩んでいることは犯罪被害である。出会い系などではネットのことをわかっていても被害に遭う人がおり、わざわざ入り込んで危ない目に遭っている。ネットについて詳しくなればいいという話ではないので、こうした問題に対してどういった対策を取ったらいいか悩んでいる。皆さんの実感とし

て、あえて危ないところに入って危険な出会いをしてしまうという問題について、感じていること、こんなことができたらいいと思うことがあればぜひ教えてほしい。

（生徒）「あえて危険なところに自分から行ってしまう」という点は、高校生は好奇心旺盛なところがあり、理解できる。好奇心が、後で自分が危険な目に遭うということに勝ってしまう。だが、「イヤだ」「怖い」と思うものには手を出さないと思うので、詐欺サイト体験アプリなどで高校生が体験するときに、好奇心が勝る年代であるからこそ、あまり過激でない演出ではなく踏み込みすぎるくらいの啓発動画で、もっと強気にやっていけばいいのではないかと思う。

（生徒）私自身は二つに分けられると思っている。まず、危ない目にわざと飛び込むという例としては、Twitter などに、やってはいけないとわかっていても、載せてはいけない画像をあげること。それは有名になりたいとか、拡散性を理解してやっていると思うのだが、そのパターンではその先にあるものが見えていない。ただ単に「載せてはいけない」といわれても、その先にある将来に関わることなどは、理解していない。先まで見せる、体験するような学習が大切だと思う。また出会い系などは、知識がどうこうではなく、コミュニケーションの問題だと思う。ネット上だけの対策ではなくて、コミュニケーション、ネット世界とリアルな世界の表裏一体性をきちんと理解した上で、現実的な対策、人権的な対策も必要になってくるのではないか、と感じている。

（構成員）先のことが見えないから危ないもの、動画などをあげるということだったが、最近頻繁にマスコミなどで問題動画などが炎上するというニュースが流れていても、それが自分のこととして考えられないのだとしたら、先を見せる動画を作っても心に響かないのではないか。マスコミでの炎上などを、実際の高校生の方たちはどう感じていますか。

（生徒）率直な意見としては、アホやなと思う。昔からやっている人はいたかもしれないが、ネットに載せるとどれだけ周りに見られるか、広がるかがわかっていない。メディアでニュースになり、犯罪だと取り上げられたことによって、ある程度の人は「コンビニのアイスケースに入るのは止めよう」と思ったと思うが、自分のこととしてとらえられていない。飲酒している画像なども、悪いという意識がない。今の段階では難しいと自分は思っている。

（生徒）スマホを持っていない立場から、メディアで取り上げられるようなふざけたことをして叩かれたりしている人たちのことは他人事で、友人との会話の話題になる程度である。他人が何か起こしてしまっても、あの人がいけなかった、で全部終わってしまう。一人ひとりが体感しないと、わからないと思う。

（生徒）メディアに取り上げられた瞬間は、意識してやめておこうと思うが、薄れた頃に勃発するのではと思う。すぐ無くしてしまうのは無理かと思うが、継続的に行うことで減らしていけるのではないかと思う。

（構成員）私たちからも高校生の皆さんにお願いしたいことがある。ここに参加したことはいい経験になると思うが、ここだけで終わらないように、生徒会やサークルで輪を広げていってもらって、横の広がりにも貢献してほしい。物事を変えるというのは大変なことであるが、高校生が力を合わせると動

かせるし、せっかくネットがあるのだから、それを使ってこうしたいい発想を広げて、地に足を着いたような活動になっていってくれたらと思う。

（構成員）初めてスマホを持ったとき、家族で決め事を持ったか。また小学校高学年では、最近急に、親のお下がりや、ねだって買ってもらうということが増えている。LINE を利用したい、たくさんコミュニケーションを取りたいと思っている高学年が増えている。こうした小学生と保護者へのメッセージを聞かせてほしい。

（生徒）スマホを持ち始めたのは中学 1 年生の時である。周りはあまり持っておらず、現状の問題には直面していなかったこともあり、母とあまり決め事をしていなかった。小学の時は、ガラケーをもっていても皆からうらやましがられていたのに、今は小学生でもスマホをいじっている。出前授業の時に、小学生がスマホを持つ理由は、メリットを活かすというよりも友達とのコミュニケーションに重点を置いているためであると思った。高校生は LINE で返事が返ってこなくても、いじめられているとか嫌われているとは思わないが、小学生は繊細なところがあるように思う。親があまり干渉しすぎると子供は反発してしまうので、LINE のチェックをするのではなく、リアルなコミュニケーションをとるようにしてもらいたい。LINE 上だと自分の伝えたいことは伝わらないこともあるので、それを頭に置いた上で使う必要があると思う。

（構成員）（情報教育が）できる先生がいる学校では、こうした高校生 ICT カンファレンスのような授業を受け、出前授業を行い、体験することで知識経験を積むことができる。それを教えることができない、苦手としている学校の生徒は、皆さんと同じように考える機会が無いから考え無しの行動をしているということが、地域関係なく存在する。それは大人の教育現場への対応が行き届いていないことが問題であると思う。今回、皆さんは全国ですごいつながりができた。高校生 ICT カンファレンスに参加した学校がリーダーとなって、同じ高校生で、授業や考える機会がない人たちへの横への広がりや、同じように皆で話し合う機会を設けるなど、取り組んでほしい。また、体験アプリの中で怒られても、デジタルの中で完結すると擬似体験でしかないので、アナログな動きと連動すると面白いのではないか。二つ質問があるが、まず、9 時以降でも友達から助けてと言われるような現状がありそうか。その時に携帯電話がオフラインになっていたら助ける命も助けられない、助けるべき人に手が届かないのではという状況が、身近で感じられることがあるか。

もう一つは、携帯電話が日本で製造中止になるという報道があるが、もし、そうすると、二つ折りのああいう形であっても中身はスマホになってしまう。だから、注意する点がすごくふえる。もし、そうなったときに、今の教育現場とか高校生たちの雰囲気のままで大丈夫かなと私たちはすごく心配で、スマホしかなくなったらどうなると思うか聞かせてほしい。

（生徒）夜歩いていて怖い時は、友達に電話すると安心する。通話が切れたら犯罪だとわかる。こういうこともあり、夜 9 時以降禁止というルールはどうかと思い、挙げさせていただいた。二つ目は、スマホしか持てないならばスマホについてちゃんとした理解が必要。買うときに少しでも、テストなどやってからしか買わせないなども有効ではないか。

（生徒）遅い時間の利用に関して、緊急時の対応が瞬時にできるのは、スマホやネットのメリットだと思う。二つ目は、現在自分はスマホを持っていないが、周りが持っている中で生活している。これか

らの好奇心もあるが、楽しいだけでスマホをいじりつづけて見返りが来たらどうしようと思う時もある。メリットとリスクを同じ地域内の高校生同士で考えていって、リスクがあるからやってはいけないという考え方ではなく、メリットを最大限活用していこうという考え方のほうがよいと思う。

（座長）ありがとうございました。

総務省　意見交換

（総務省）提言の中で、高校生が出前授業に行き、小中学校で教えられるようになるとよいという点が大きなメッセージだと思うが、具体的に自分が行くとしたらこんなことをやってみたい、こういうことがあるとやりやすい、という点があれば教えてほしい。

（生徒）自分の高校では出前授業をすでにやらせていただいており、中学校 3 校に行かせていただいた。アンケートなどは高校生ではできる範囲が限られており、自分たちだけでは難しいので、数字が出ると高校生でも中学生でも納得しやすく、そういったものがあるとやりやすいと思う。

（生徒）啓発動画について、実際に自分の学校でもネット・スマホの使い方を考えようということで講演会が行われているが、こういうものが危ないという動画を見ても実感が湧かない。今回のサミットで、他県から参加した生徒が制作し、自身が出演している啓発動画を見せてもらった。同年代の人がやっているのを見ると、自分も身近な問題として考えなければいけないのだなと実感が湧いてくる。身近に感じることで意識が変わると考えている。
（高校生 ICT カンファレンス実行委員長）サミットが終わった後、いくつかの地域で動画を作ったりする動きが起こっており、学校現場では、ルール作りが流行っている。かつて大学がソーシャルメディアガイドラインをかなり作ったが、その波が名前を変えてルールとして中高の現場に下りてきている。うまくやっていくときにデータ、資料が大きなポイントになる。総務省が出しているデータ、ILAS なども含めて、活用していくと作りやすく、具体的になっていくのではないかと思う。

（総務省）一般の高校生は、こうしたネットのリスクについての知識はどれくらい当たり前に持っているか。知らない人がたくさんいてトラブルに巻き込まれているのか、リスクはわかっていてうまく事故に遭わないようにしているのが大勢なのか、教えてほしい。

（生徒）コミュニケーションでのトラブルは、高校生になるとだいぶわかってきて少ないと思う。ニュースになったように、画像をアップしてしまう問題については危機感が少ないように思う。一度取り上げられたものはしなくなるが、タバコやお酒の画像は良く見かけるので、そういう面では問題になっているが、自分自身のこととしてとらえていないと感じている。リスクをわかっていない人がまだまだいると思う。

（生徒）スマホを持っていないので、ルールに関してはカンファレンスに参加するまで知らなかった。ふざけて遊んでいる画像をいつの間にか撮られて SNS 等でアップされ、どうでもいい動画が遠方の知人まで広がっていってしまって、友達にいらっとしたことがある。自分の興味本位や突発的な面白さだけでトラブル寸前までいってしまうという状況は周りでもしょっちゅう聞くので、一線を越えてしまうと危ないという状況は良く見かける。

（総務省）ルールづくりにおいて、時間を決めるなど色々なルールがあると思うが、LINE などは時間が来てもやりとりを続けてしまうということがあるのではないか。LINE をやっていて、終わるときの合図はどうしているか。

（生徒）高校生 ICT カンファレンスに参加するようになって、依存をとても意識するようになった。依存を知る前は普通に LINE を使っていたが、意識するようになってからは、使う前にどちらが優先か考えるようになった。何時までというのは難しく、LINE は会話の中なので、相手が返してくる時間にもよる。使う前にルールを決めるのも大切なことだが、まず自分自身がどちらを優先するか、友達から助けてと来ているのにご飯食べるから、と言ったら、その友達が問題に巻き込まれたらせっかくのスマホのメリットが生かせない。逆に、今何してる？というのが来てご飯の時間に返すのは、優先順位が違う。それをちゃんと把握していれば、ルールをきっちりと作らなくても大丈夫ではないかと思う。LINE の終わり方だが、仲のいい友達であればスタンプが来たり、話が無くなったら終わりなど、人によって変わってくる。既読未読無視の問題があるので、何々するからバイバイと言ったほうがよく、コミュニケーションのトラブルが無くなる。それができない子が依存になってしまうのではと思う。

（生徒）時間設定をしている人に限って、オーバーして親に怒られているという笑い話をよく聞く。守ることができていないなら設定しても意味がないと思う。自分は（スマホを持ったら）、時間制限は意味がなく、時と場合によるのだと親と話そうという考えを持つようになった。LINE の終わり方はわからないが、持っていない側からすると、LINE が無くても人間は生きてきた。使用時間や終わり方があるなら、学校で会ったときに「うちのルールはこうなので」とあらかじめ直接伝えておけば、自分の現状を理解してもらえるのではないか。リアルなコミュニケーションで伝えておくと、LINE のトラブルは無くなっていくのではないかと思う。

（総務省）スマホを持っていないということだが、インターネットはどういう方法で、家でどれくらい使用しているか。
（生徒）家にパソコンがあり、見ることができる。一日平均 1 時間弱くらい使っていると思う。クラスの連絡網には入れていないので、自分だけ回ってこなかったということがあった。
（総務省）LINE は使っているか。
（生徒）はい。サミット以降、親に頼んで、家でだけタブレット端末を使ってできるようになった。この発表の前２～３週間くらい Wi-Fi の調子が悪く、まったく使えなかったので発表の打ち合わせが前日にできたくらいで、活用できていない。
（生徒）私はすぐに返すほうではないので、一日 10 回やり取りしたらやったほうだと思う。
（総務省）相手は友達か、家族とは利用するか。
（生徒）家族ともよく使う。ご飯は要るかとか、何時に帰ってくるかとか、電話は出られないときがあり、電車の中でもすぐ伝えられるから便利だと思う。
（総務省）家族全員が利用しているか。
（生徒）全員利用している。
（総務省）家族のコミュニケーション手段にもなっているということか。
（生徒）はい。

（総務省）今日はありがとうございました。体験と納得、発信の三つの関係というものに、大変感心した。若い時代、人は誰でも押し付けられたことは納得しないとルールを守れない。自分が納得していないと人に言えないというのはその通りだと思う。拡散してしまう SNS が問題の根幹でもあるわけだが、SNS の発信力を良く使っていくという部分は、とても良い着眼点である。良い活動について広める方法をどう工夫していくかというのがこれからの課題ではないかと思う。

総務省は通信をやっているということもあり、インターネットの利用については、大人子供を問わず安全に使ってもらえるよう常に考えながら仕事をしている。講習や研修だけではうまくいかないと思うので、今回のプレゼンテーションを含め、高校生 ICT カンファレンスという活動自体に期待を持っていきたい。色々な地域で今回のような活動を自立的にやっていく機会がもっと広がっていけばよいと考えている。もう一つのキーワードは自発性、自律自走型。総務省は、これからも皆さんの活動をできる限りお手伝いしていきたい。皆さんもこれから身の回りで広めていくことに努めていってください。

文部科学省　意見交換

（文部科学省　以下文科省）発表ありがとうございました。高校生が直接発信していくということは同じ世代の人や近い世代に大変有効だと思うが、具体例があれば教えてほしい。

（生徒）実際に、中学校で 3 回ほど出前授業を行った。講演という形で、モラルやリスクについて伝えたりした。また、地元の地域で小中学生、教育委員会の方にも来ていただき、ワークショップを開いて皆で考える場を設けたことがある。高校生がやることで新鮮さがあり、年齢が近いからか、よく聞いてくれた。

（生徒）今までは知らない人が作った動画を見ても実感が湧かなかった。サミットで他県の生徒がつくった啓発動画を見せてもらい、同年代の生徒が出演し感じたことを話している動画を見るのは親近感があり、自分も気をつけようという気持ちになった。

（文科省）各地域で大人が色々な取組みを行っているが、「これは違うのでは」「無駄なのでは」と思ったことはあるか。

（生徒）無駄と思うことはないが、子供がやっていると親近感もあるし、勉強という感じがあまり出ないのではと思った。ワークショップも硬い感じではなく、ゲーム的な感じも取り入れながら、遊びのような楽しい感覚で取り組むことができると思う。

（生徒）学校での講演会はムダではないと思う。知らない大人が来て講演しても、他人事のような感じで硬いイメージになるので、ワークショップのような形はいいと思う。良い思い出というのは強く残るので、講演会という形ではなく、もっとアクティブな感じのほうが身につくのではないかと思う。

（文科省）文科省では、学校で学ぶべき内容、学習指導要領というのを決めていて、使わなくてはいけない教科書を検定するというルールを決めている。また、皆さんが「高校を 1 年で卒業して大学に行きたい」と思っても、それはできないというのもルール。最近では、地方公共団体や学校などが策定した独自のルールづくりの動きがあるが「夜 9 時以降の使用禁止」や「中学生以下スマホ所持禁止」というルールに対して、結局、皆さんはどのような結論なのか。これを説得するために、体験して納得してもらうためにサイクルをつくるというのも方法だが、このルールはおかしいのでは、という考えもあり、別のルールがあるかもしれない、という考え方もあるが、結論としてはどちらか。

（生徒）この 2 つのルールに関しては、問題の根本に直結していないのではないかという思いはある。高校を 1 年で卒業できないことに異議が出ないのは皆納得しているからで、スマホのルールは納得されていないと考えている。ルールがあっても問題が解決できておらず、ルールを変えていかないと現状とギャップがあるのではないかと考えている。歩きスマホをしてはいけない、というのは納得するルール。大人と子供が話し合って納得してルールを作っていくべきと思う。

（生徒）自分はスマホを持っていないので、どんな問題があって、なぜ中学生保持禁止が一般で行われているのか、ルールの存在自体に疑問を抱えている。今あるルールは、スマホを今持っていない人は知

らずに、持った時に一から学びなおすのか、と思うと発信する意味がないと思う。スマホ・ネットだけではなくて、社会の一般常識として当てはまるルールの中で、スマホ・ネットのルールを作っていけば、持っていない人の認識も高まると思う。ただ単に禁止という文字が入るルールに関しては、あまり意味がないのではないか。

（文科省）ネット依存になったり、犯罪に巻き込まれる生徒に対して、現行の施策以外にも効果的な対策はないかと思っている。フィルタリングについて、かけられる側としてどう思うか。現在、保護者に対してフィルタリングをしっかりかけるよう呼びかけようという議論があるが、フィルタリングをかけられる側の高校生としては、どう感じているか。

（生徒）サミットでもその話が出た。フィルタリングの会社の方も来ており、その話をした。自分が持つスマホはフィルタリングがかかっている。携帯電話会社を変更したところかかってしまい、勉強に使っていた知恵袋も見られなくなって不便を感じた。フィルタリングは 1 か 10 ではなく、薄さは調節できると聞いた。どこまでかけるかかけないかを自分で設定できるならいいと思う。しかしそれには自分が判断できるモラルが無いといけない。

（文科省）確かに、フィルタリングに段階があるのはあまり知られていない。

（生徒）聞くまで全く知らなかった。段階的ならば、全然かけてもいいなと思う。

（文科省）インターネット上には、「調べもの」等で便利なサイトもあるが、内容に事実誤認を生む可能性があるものも掲載されている。

（生徒）その理由でかけられているのだと思うが、フィルタリングに関わらず、禁止するルールでいい面も消されてしまうと、スマホがある意味は何だろうと感じる。スマホを使うことで海外の子と SNS 交流できるなどメリットを感じているので、こうしたことを変えていかなければいけないと思う。

（文科省）いまスマホを持っていない方に伺うが、いつかスマホを持った時フィルタリングをどう思うか。

（生徒）フィルタリングの存在そのものがモラルの徹底から外れていると思う。なぜフィルタリングがかかっているのか。存在の意味をわからずに縛られている状況を聞くと、存在自体に納得がいっていない。当事者にモラル意識がしっかりしていたら、必要がない。

（文科省）スマホはいろいろな次元の問題があり、いじめの道具に使われたりする。（内閣府の検討会において）フィルタリングの問題については、アプリ、Wi-Fi 経由のフィルタリングがかかっているスマホを持っているのは 4 パーセントしかないという発言もあり、これをどうやって引き上げていくのか、数値目標はないのかという意見が出ていた。こういう議論の中で、そもそもどうしてフィルタリングをかけるのかという点をよく押さえた上で、議論を進行していかなければいけない。文科省も学習指導要領の総則において情報モラル教育をしっかり行っていくことを先生方へのお願いとし、念頭に置いてもらっていると思うが、だから問題が無くなったことではなく、よく勉強していかなくてはと思っている。

印刷物の作成・配布など行っているがあくまでも入口であり、生徒、児童同士で話し合っていくきっかけをどうしていくか、考えていく必要がある。トラブルなどについては、ワークショップ形式が非常に有効ではないかという感じを持っている。カンファレンス参加前と後で知識・考えの深さに違いがあると思うので、もう少しこうした取組みが広がっていけばと思っている。あなた達のような意識を持っている人が、周りの人や友人でインターネットやスマートフォンの利用に関する諸問題について、関心の薄い人たちに、同じような意識・関心を持つように働き掛けてくれるような取組をして欲しい。

（文科省）高校生 ICT カンファレンスに関して、改善点や要望はあるだろうか。

（生徒）知識ゼロの状態から本日を迎え、とんでもない量の情報量を頭に入れて、知識もついたと思うし、スマホを持っている周りの人への考え方も変わった。とても良い経験になったのは間違いない。この活動をもっと広げて、いろんな人が各地区の高校生 ICT カンファレンスに参加するだけでもとてもいい体験になるので、もっと広げていってほしい。多数になれば少数の人はその意見に寄って行きたいものだと思う。多くの高校生に意見を言えるこうした場に参加して欲しい。

（生徒）モラルについて学校の定期テストのように勉強してきたわけではない。高校生 ICT カンファレンスに参加するだけでこれだけの知識が身につくならば、皆参加できたら、勉強をするわけではないのでとても貴重な経験と思うし、皆が体験できたらと思う。高校生 ICT カンファレンスに参加する子はみんなわかっていて、これはいい、これはいけないということを考えている。そうでない子が問題を起こしている。その差をどう埋めていき、皆が参加できるようにできるかは私たち自身の課題であると思う。

（文科省）父母に、スマホを買うときに気を付けるべきことをどうやったらうまく伝えられると思うか。また、家庭における話合いをしっかり持つ方法はどんなことが効果的だと思うか。どうやったら家庭に理解してもらえるか。

（生徒）母親たちがスマホのことをわかっていないというのはよく言われる。自分の家ではよく話すし、スマホで何ができるか親もわかっている。だからルールがなくてもうまくいっている。リアルなコミュニケーションが無いからこそ、母親も子供が何をやっているかわからないし、問題が起こってから「問題が起きてしまった」で終わってしまう。母親自身も何ができるかを理解して、コミュニケーションを取るようにしたらいいと思う。

（生徒）うちは子供にはスマホは必要ないという父親。父親自身は使っており、母もガラケーを 5 年前くらいから使っている。スマホが無くても学校が近いから生きていけるだろうという考え方で指導されてきた。親なりに子供の知らないところでスマホの良い所を学んでいるようだが、同じ中高生の年代はあまり親と会話が無いようなので、皆が持っている年代になってから親に話を通そうと思っても、親に話に行く前に自分からシャットダウンしてしまうという現状がある。小学校の授業参観は結構親は観に来るが、中高になるとぱったり来なくなる。ネット社会になる中で、親に子供と一緒に座ってもらって、授業参観で親子一緒にスマホについて考えてみる時間を持つのも面白いのではないか。

（文科省）本日はありがとうございました。職員と意見を交わして、実のある発表だったと思う。発表を活かせるよう話し合っていく。高校生 ICT カンファレンス実行委員の皆さんも尽力いただき、改めて

御礼申し上げる。ICT 教育は文科省としても重要な問題なので、対応について一緒に考えていきたい。参加された高校生の皆さんには、実践をしていっていただきたい。本日は貴重な提言ありがとうございました。

経済産業省　意見交換

（経済産業省　以下、経産省）この中で一番若い皆さんとして、何歳くらいからスマホを持たせたら大丈夫と思うか。

（生徒）環境にもよると思うが、塾に行き始める、夜遅くなるなどで連絡が要るので、ガラケーでもよいが、私としては中学１年生くらいが新たなステップということで、いいかなと思う。

（生徒）自分がスマホを持っていないのだが、個人的な意見としては、中学 3 年生がよいと思う。たいていの学校で、ルールを中学で学ぶと思うが、高校生は大人として扱われるので、その直前の中学 3 年生がいいのではないかと思う。

（経産省）私の中学高校時代を振り返っても、校則が非常に厳しい学校で、なぜそれが必要かというところがなく、納得感がなかった。納得感を持って高校生が自らルールを体得するということは大切だと思う。メリットとして、道調べやクラスの連絡網、確かにこれは便利だろうと思うが、これだけではなく、メリットとして例えば色々調べれば学習にも使えて自立的に学習できるとか、あるいは世界中の人たちと SNS で友達になるなどプラスの面があるだとか、もう少しメリットを打ち出していったほうが親を説得しやすいのではないかと思う。いま、高校生の皆さんでクラスの連絡網以上に、自己学習とか、世界中の人たちと友達になるとか、どういう形でプラスに使っているのか、実態をよくわかっていないので教えていただきたい。

（生徒）時間を見るのも時計より携帯、計算、音楽、すべてスマホを使っていて、メリットというときりがないほど生活の一部になっている。禁止することは無理なのではないかと思う。いかにリスクをなくしてメリットを考えるかのほうが大切だと思う。

（生徒）持っていないので、無くてはならない感覚がまだわからない。緊急時に友達に借りたりする。課題調べのときに、友達がちょっとスマホを使って・・・と聞くと、手元にあるからいつでもできるというのは羨ましく、効率も上がるのではないかと思う。スマホは羨ましい存在。

（経産省）高校生が中心となって、こうした取組を行っていることが素晴らしいと思う。高校生が核になることで、小・中学生からすると、大人よりも近い存在からアドバイスをもらうことができるし、大人からすると、よく使っている人から話を聞くことができる。最近では、スマホでのオンラインゲームが普及してきており、ゲーム専用機を持っていなくても、スマホさえ持っていればダウンロードしてゲームができる環境になっている。出前授業や地域の学習会での議論等において、ゲームについてはどのような話題が出たのか、また、どのような問題意識を持っているのか、教えていただきたい。

（生徒）ゲームは良い面でも悪い面でも話題となる。悪い面でいうと、課金の問題と依存の問題がよく出る。課金については、親が知らず後から請求が来て驚くことがよくあるようだ。友人には、かなりお金を払ってゲームをやっている子や、親とよく話していない子もいる。課金は目に見えないので良く親と話し合って決めるべき問題だと思う。依存の問題は難しいところがあると思っている。サミットにも依存している子が来ており、自覚していても止められないと言っていて驚いた。考えなくてはならない

問題なのだと思う。

（生徒）自分はやったことがないが、リアルなコミュニケーションの中でゲームの話が出てくるのは男子である。存在は知っていて理解はしているが、細かい話になるとやっている人だけで盛り上がって、やっていない人はその輪に入っていないという状況がある。SNS のいじめだけでなく、輪に入れない孤独感というのを感じさせるのではないかと心配したこともある。同じゲームをプレイしている同士で新しいコミュニケーションが生まれたり、現実世界で良い出会い、良いつながりが持てるかもしれず、持っていない側からするとうらやましくもあるが、無くして欲しいものでもある。

（経産省）スマホやタブレット、PC を製造したり、アプリやソフトウェアを作る事業者も、ネットの問題は大変意識して取り組んでいる。フィルタリングなどはまさにそうであるし、利用者が設定等しやすいような仕組みにサービスの設計をしたり、ネットモラルについて出前講座をしている事業者も多く存在している。こうした事業者に対して、もっとこうしてほしい、こういう機能がほしいなど、何か求めることはあるか。ネット利用に関連する問題の解決に結びつくことで、何かあれば聞かせてほしい。

（生徒）皆の中で出たのは、利用規約があるが、「同意する」を押さないと進めないので、読んでないけれども押す。それだと形だけになっている。それも一つの原因ではないかと思う。誰が使っているのかを考えて文章を工夫して、子供が使っているのだから利用者がわかりやすいようにしてくれたら少しは変わってくるのではないかと思う。

（生徒）日常生活で役に立つ色々なアプリがある。スマホを使いたいからと親を説得するとき、このアプリを使いたいし、これがあれば普段の生活がこんなに良くなると言いたい。利用規約などを分かりやすくして、身近なところにアプリがあってくれたらいいと思う。誰かがいいアプリを持っていたら、自分も使いたいと感じて広まっていくと思うので、良い点、生活に役に立つ面をアピールしてほしい。

（経産省）意識改革サイクルに乗れば問題は解決していくかもしれないが、どう乗せていこうと思うか。啓発動画を見せたり、勉強会などに参加してもらうために、どうやって呼び込もうと考えているか。モラルの話は、スマホだけではなくインターネットを使い始めた頃から存在する。そもそもネット・スマホを使用したい人の中には、動機は不純というか、若干、モラルに外れた動機で使いたいと思う人がおり、積極的に学ぼうと思ってくれるか疑問に思う。そういう人たちに働きかけて呼びこむために、具体的に引き込んでいく方法をどう考えているか。

（生徒）まず、提言には教育という堅苦しい義務的なものとして書いたのだが、問題が解決しないようならば、免許証というように、強制化してしまうこともある。また、サイクルに入ることができていない人がいるのはもっともなこと。我々のようにこうした機会を全員に設けるのは難しいと思うが、啓発動画、楽しい要素を組み入れたもの、例えばグーグルがやっているウェブレンジャーというプログラムは、みんなで啓発動画を載せてコンテストをしようというようなもので、高校生は楽しいことにすぐ乗りたがる。私たちが楽しい要素を取り入れ、勉強というよりエンターテインメントの一つとして組み入れていくことができたらと思う。

（生徒）小学校高学年からスマホを持ち始めているという現状があり、大人から言われることを素直に受け止めやすいのは小学生だと思う。スマホのいい面悪い面を学んでもらいたい親に対しても、一番来ることが多い小学校の授業参観で、子供と一緒に授業に参加して、ネット・スマホのメリットやリスクについて学んでもらう。これが継続的につながっていき、小学校のうちから保護者と一緒に考えるという風景が当たり前になっていけば、自然とサイクルが出来上がっていくと思う。

（経産省）高校生の二人から質問はあるか。

（生徒）アプリを作る際に、それに備わった機能はユーザーにヒアリングして作っているのか。

（経産省）基本的には、事業者が提供したいものを自由に作っている。ただ、規制により作ってはいけないものもあり、そのような場合に指導が入ることはあり得る。基本的には自由にビジネスをしてもらっている。

（生徒）こういう問題が起きているのはコミュニケーションアプリでありスマホだが、それを作っている会社はそれが利益であり、目的としている。しかし、それで問題が発生しており、その対策をその事業者がやっている。まとまらないのですが、会社としてはどう思っているのか。それを止めてしまえば問題は無くなるわけだが、それが仕事であり、利益を追い求めていくものである。会社側としては規制をかけると利用者が減り、利益が減る。そういうギャップが高校生の立場からすると全然わからない。どういう考えなのか。

（経産省）色々な考え方があると思うが、一つは事業者自身も問題が生じた場合にはそれを放置しておくわけにはいかないという立場にあると思う。というのも、自分が作っているアプリで儲けているとして、そこで何か問題が起こったり、そのアプリが危ないということになると、ユーザーが離れていってしまうし、極端な場合には規制されてしまってビジネスができなくなるということもあり得る。放っておくことは望ましくない選択ということになり、自ら対策をしていくというのは自然なことなのではないか。

（生徒）これからは、企業もそういう対策を強化していってくれるということか。ある会社で話をきいたとき、利益も大事だがまず利用者の安全が第一、それがあっての自分たちのやっているアプリであるという話をきいて感銘を受けた。全ての企業がそう考えてくれたら問題も解決しやすくなるのではないか。企業が動いてくれると解決も早く、進んでいくのではないかと思った。

（経産省）CSR という言葉をご存じかもしれないが、企業も社会の一員であり、しかも影響力が大きい立場であることから、社会的に責任を持って自分のビジネスを行うべき存在である。問題が起きたときに自らが真っ先にダメージを受ける立場でもあるので、意識ある企業はしっかりと取り組んでいる。一方、短期的な利益を求めてしまい、そこまで手が回っていない企業もあるかと思う。

（経産省）この取組みで一番苦労したことはどこか。意見をまとめながら議論があったのだろうと思うが、本日を迎えるまで、議論や資料作成で苦労したところはどんなことか。

（生徒）一番苦労した点は、自分がスマホを持っていないので打合せができなかったこと。皆の意見をまとめて発表する立場になったとき、持ってない人の立場も伝えるために調べてみたり、日常の会話で画像をアップロードして問題になることについての意見を聞いたりした。リスクはあると思うが、離れても連絡ができるのはとてもいいことだと思うので、打合せができなかったのが辛く、困ったところではあった。

（生徒）この問題自体に答えが無いけれど、なんとかしなくてはならない。最初は話すのもとても緊張したが、色々なアイデアが出て、色々な地域から来る、初めて会う人とコミュニケーションをとりながら意見をまとめたり、自分の意見を的確に伝えるのはとても大変だと感じた。色々な人の意見を聞くことができて貴重な 3 年だったと思う。

（経産省）今回省庁を 4 カ所回っての気づきはあったか。

（生徒）行くところによって質問が異なり、観点が異なることがわかり、スマホ自体がいろんな方面につながっていることがわかった。一つのものだけを考えたらいいのではなく、企業の話、教育の話、様々に考えなければならず、難しい問題だと思った。

（生徒）スマホが世間や社会に及ぼす影響力を感じた。サミットに参加するまでは、大人を否定する発表が多かった。大人もルールを守っていないというのは自分の直球の意見だが、今日、色々な方の話をきいて、すでに大人もこの問題にどう取り組んでいくべきか悩んでいることがわかった。帰ったら、サイクルを作っていくためにどう広めていくか考えたい。まずは自分の学校での、サイクルが出来上がりそれを地域に広めるためにやりたいことを、先生に提案していこうかと考えている。隣県の活動などが聞こえてきたら、ここに来ていない他県の参加メンバーも活動しているのかなと思うことができる。スマホで連絡を取り合ったら、全国各地にすぐに広まるのではないか。帰ってから頑張っていきたいと思う。

（経産省）ありがとうございました。

主担当

大阪私学情報教育化研究会	米田	進行（概要説明）
安心ネットづくり促進協議会	白戸　他	事務局、庶務
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構	清水、野沢	撮影、記録
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	工藤	記録

16. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

高校生 ICT Conference 終了後、開催報告書、熟議録、生徒のグループ発表資料、画像と併せて高校生 ICT Conference 2015 のサイトにアップデートします。

http://www.good-net.jp/ict-conference/2015/

以上